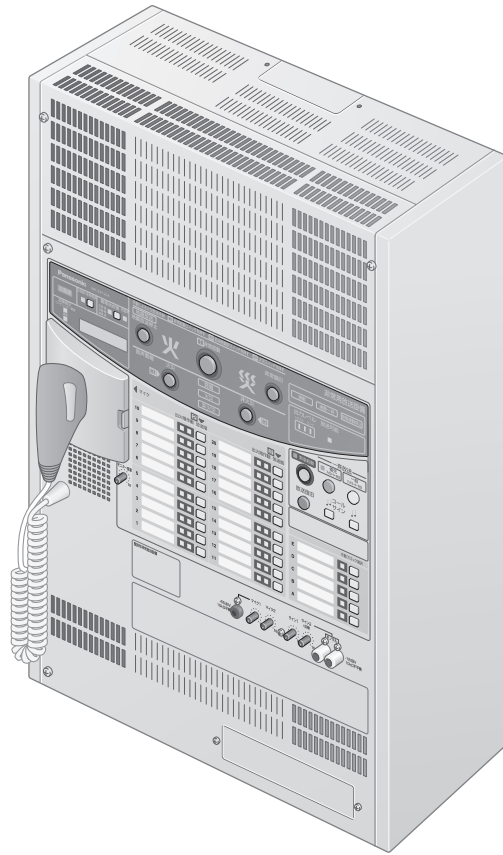


取扱説明書

工事説明書別添付

壁掛形非常用放送設備

品番 WK-EK110A, WK-EK115A, WK-EK120A



イラストはWK-EK120Aです。

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(5～6ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

商品概要

本機は、小規模から中規模の建築物に適した壁掛形非常用放送設備（以下、本体）です。非常放送以外に、緊急地震放送、緊急放送、業務放送が可能です。

●非常放送

- 音声警報により、発報放送・火災放送・非火災放送を行います。
- 音声警報のメッセージは、「日本語」「日本語+英語」での放送が可能。標準で49パターンのメッセージを内蔵しています。
- 非常放送時には、音声によって操作方法を指示する操作指示ガイダンスと、操作場所を表示灯で示す操作指示灯により、非常放送時の機器操作を支援します。

●緊急地震放送

- 緊急地震速報受信端末（別売り）に連動して、本機に内蔵された地震放送用メッセージを、非常放送よりも優先して放送します。^{※1}

●緊急放送への対応

- 緊急起動スイッチを装備（機器前面）し、緊急事態発生時に、スイッチ操作1つで優先放送が可能な状態となります。
- 緊急起動端子をもち、外部からの起動信号により自動的に緊急放送状態へ移行することができます。
- 外部に音源機器を接続し、緊急用放送メッセージを放送することができます。
- オリジナルのメッセージ音声ファイルを本機に組み込み（SD / SDHCカード<別売り>を利用^{※2}）、機器前面のスイッチを使用して、緊急放送用メッセージ（業務放送用メッセージも可能）を放送することができます。
- サイレン音声を内蔵しています。避難訓練の際などに使用することができます。

●業務放送

- 放送したい場所をあらかじめ設定し、スイッチ1つでまとめて放送できるブロック放送が可能です。
- 上り4音/下り4音のコールサインを内蔵しています。オリジナルのコールサイン音声を本機に組み込んで放送することができます。（SD / SDHCカード<別売り>を利用^{※2}）
- ラジオチューナー WU-T60B（別売り）を組み込むことが可能です。
- マルチリモコンマイク WR-MC100A（別売り）を接続し、遠隔からの一般放送ができます。
- 業務放送時に、ライン1、2、ラジオチューナーの音量を減衰する、優先回路を内蔵しています。
- チャイム音源（ウェストミンスターの鐘 他2種）を内蔵しています。

●メッセージ音声の内蔵

- 10種類のメッセージを内蔵しています。機器前面のメッセージスイッチまたはブロック選択スイッチで放送することができます。
- 内蔵のメッセージ音声をオリジナルのメッセージ音声に入れ替えることができます。

●自己診断機能

- 蓄電池電圧点検、非常リモコン通信点検、スピーカー回線短絡点検、非常/業務放送兼用マイク点検、電力増幅ユニット点検、コンピューター異常の自己診断機能付です。

※1 本機は、緊急地震速報の受信機能はありません。緊急地震放送を行うには別途、緊急地震速報受信端末が必要です。

※2 別途、設定支援ソフトが必要となります。設定支援ソフトの入手方法は販売会社にご相談ください。（無償）

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....	1冊	「非常放送のしかた」手順書.....	1枚
工事説明書.....	1冊	保証書.....	1式
ピンジャックキャップ（本体に取り付け済み）.....	2本		

2 ※設置工事に使用する付属品については、工事説明書に記載しています。

免責について

この商品は、感知器などからの信号を受信した場合に非常放送を放送する設備であり、この商品単独で避難誘導するものではありません。

弊社はいかなる場合も以下に関して、一切の責任を負わないものとします。


- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による傷害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声できないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の点検が適切に行われていない結果、発生した損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。

 **重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。

 **メモ** : 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

ご使用前に

ご使用前に

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	3
著作権について	3
記号について	3
もくじ	4
安全上のご注意	5
使用上のお願い	7
各部のなまえと働き	8

操作

操作

非常放送のしくみ	14
概要	14
用語の説明	17
非常放送のしかた (1) 感知器起動	18
非常放送のしかた (2) 感知器起動	20
非常放送のしかた (3) 発信機・非常電話起動 (発報)	22
非常放送のしかた (4) 発信機・非常電話起動 (火災)	24
非常放送のしかた (5) 手動起動 (発報)	26
非常放送のしかた (6) 手動起動 (火災)	28
緊急地震放送について	30
緊急地震放送とは	30
緊急地震放送の動作	30
緊急地震放送を行っているときの非常放送について	31
緊急放送のしかた	32
業務放送のしかた	34
優先順位について	39
ブロック放送について	40
相互通話のしかた	42

必要なとき

必要なとき




日常点検	43
電源の点検	43
保守点検	45
総合点検について	45
自動点検について	46
故障かな!?	47
機器の状態表示と対処方法	48
仕様	49
保証とアフターサービス	55

安全上のご注意



必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

 危険	「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。
 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 危険

蓄電池に強い衝撃を与えない



禁止

ハンマーなどでたたいたり、くぎなどを打ち込まないでください。発火・破裂の原因となります。

蓄電池を分解しない



分解禁止

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池の⊕ ⊖ 端子をショートさせない



禁止

発熱、発火の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない



禁止

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因となります。

- 修理や点検は販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- 直ちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

周囲に物を置かない



禁止

非常時の操作を妨げる原因となります。

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

定期的に点検をする



非常時に適切な避難誘導が行えない原因となります。

- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

質量に耐える取り付けをする



取付の場所や方法が不適切な場合、落下（や転倒）などでけがの原因となります。

- 販売店に依頼してください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り、販売店にご連絡ください。

定格 20 A 以上・交流 100 V の分電盤に接続する



指定外の接続をした場合、非常時に適切な避難誘導が行えない原因となります。

注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

使用上のお願い

●保守点検契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。建物の規模、用途によっては消防設備士、または総務大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。非常用放送設備が正しく動作するために、保守点検契約の締結をおすすめします。保守点検契約の締結については、販売店(工事店)または販売会社にお問い合わせください。

※保守点検契約を締結していただくということは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検を引き受けることとなりますので、保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。

●日常点検をしてください。

万一の際(非常時)、機器が正常に動作するよう日常点検を行ってください。特に非常電源の点検は必ず行ってください。(日常点検の方法は、43ページをご覧ください)

蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。点検時容量不足があれば新品と交換してください。

●日常点検時に異常を発見した場合は、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

●必ず定期点検を行ってください。

日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、すべてではありません。必ず定期点検を行ってください。

●非常放送の設定内容は変更できません。

非常用放送設備は、設定された仕様を管轄消防署に届けているため、安易に設定内容を変更することはできません。運用開始後の非常放送設定の変更は、管轄消防署の確認が必要です。

●本機内部には、電圧の高い部分がありますので、操作パネル部は絶対に開けないでください。

●分電盤のブレーカーは絶対に切らないでください(常に主電源表示灯が点灯していること)。

非常用放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので、本機を結線した分電盤のブレーカーは、絶対に切らないようにしてください。

●使用温度範囲は、0℃～+40℃です。

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

●設置について

●本機の上や周囲に物を置かないでください。

本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障や落下の原因となります。

また、左右0.3 m以内、操作面1 m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。

●「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。

設定された起動方式を確認し、非常時に確実に操作できるように、「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。設定起動は、表題の下に記載しています。

本機の上には絶対に置かないでください。

●電池について

電池パックは、日光、火などにより過度の熱にさらされることのないようにしてください。

●お手入れのしかた

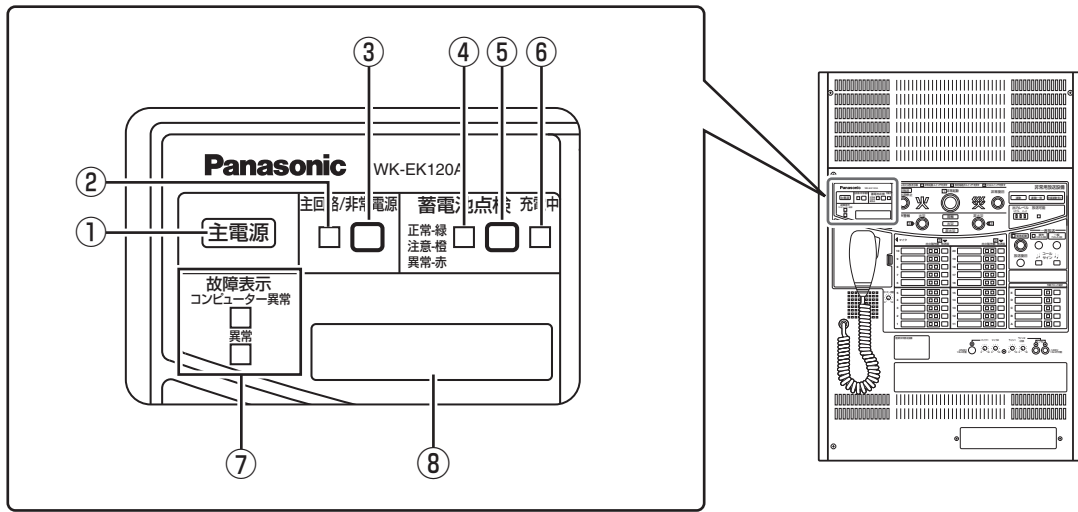
ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤(中性)を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。

ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

-
- 重要** ● 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。
-

各部のなまえと働き

ご使用前に



① 主電源表示灯 [主電源] (緑色)

- 常用電源 (AC100 V) を使用しているとき、緑色に点灯します。
- 停電時は消灯します。

② 主回路／非常電源表示灯 [主回路／非常電源] (緑色)

- 主回路および非常電源の状態を表示します。
- 停電時は消灯します。
- 非常電源電圧点検スイッチを押すと、非常電源の状態を表示します。
点灯 (緑色) : 正常
消灯 : 異常 (保守契約店または販売店にご連絡ください)

③ 非常電源電圧点検スイッチ

非常電源電圧を点検するときに押します。

④ 蓄電池表示灯

24 時間おきの自動点検時および蓄電池点検スイッチを押したとき、コンピューターが約 10 秒間蓄電池を点検して、結果を表示灯の点灯色で表示します。(点検中は消灯します)

緑色点灯 : 正常電圧の範囲内

橙色点灯 : 正常電圧の下限 (蓄電池の交換時期が間近です)

赤色点灯 : 動作電圧以下 (蓄電池を交換してください)

点検結果 (点灯色) は、次の点検まで保持されます。

⑤ 蓄電池点検スイッチ [蓄電池点検]

蓄電池の電圧状態を点検するときに押します。

⑥ 充電中表示灯 [充電中] (緑色)

蓄電池を充電しているときに点灯 (緑色) します。

⑦ 故障表示灯 [故障表示] (赤色)

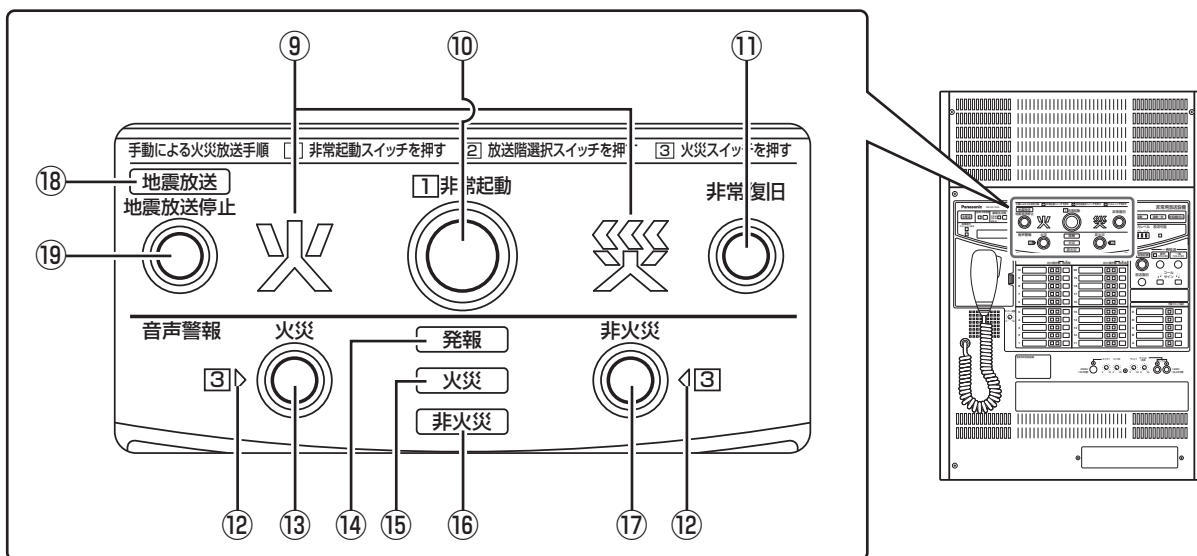
異常が発生したときに点灯します。

コンピューター異常表示灯 : コンピューターが異常のときに点灯します。

異常表示灯 : 「コンピューター異常」以外の異常が発生したときに点灯します。異常内容は液晶画面に表示されます。

⑧ 液晶画面

非常放送時の操作指示、異常発生時の内容、動作状態などを表示します。



⑨ 火災灯（赤色）

非常起動すると点滅または点灯します。

点滅の場合：階別信号による非常起動、または第1タイマー（火災放送移行タイマー）作動中など
点灯の場合：「階別信号+火災確認信号」による非常起動など

⑩ 非常起動スイッチ【非常起動】

- 手で「非常放送」を放送するときに押します。
- 発報放送時または火災音信号鳴動時に、このスイッチを押して「火災放送」を放送することができます。

⑪ 非常復旧スイッチ【非常復旧】

非常放送を復旧するときに押します。ただし、感知器が動作している間、非常放送状態は復旧しません。

⑫ 音声警報選択指示灯（橙色）

- 発報放送中は、火災放送スイッチおよび非火災放送スイッチの指示灯が点滅します。
- 火災放送中は、火災放送スイッチの指示灯が点灯し、非火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- 非火災放送中は、非火災放送スイッチの指示灯が点灯し、火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- 状況を確認して、放送内容に誤りがあれば選択し直して正しい放送を行ってください。

⑬ 火災放送スイッチ【火災】

火災を確認したときに押します。「火災放送」が放送されます。

⑭ 発報放送表示灯【発報】（橙色）

設定された回数の「発報放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑮ 火災放送表示灯【火災】（赤色）

- 火災放送スイッチを押すと点灯します。
- 「火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑯ 非火災放送表示灯【非火災】（緑色）

- 非火災放送スイッチを押すと点灯します。
- 「非火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑰ 非火災放送スイッチ【非火災】

火災でないことを確認したときに押します。「非火災放送」が放送されます。

⑱ 地震放送表示灯【地震放送】（橙色）

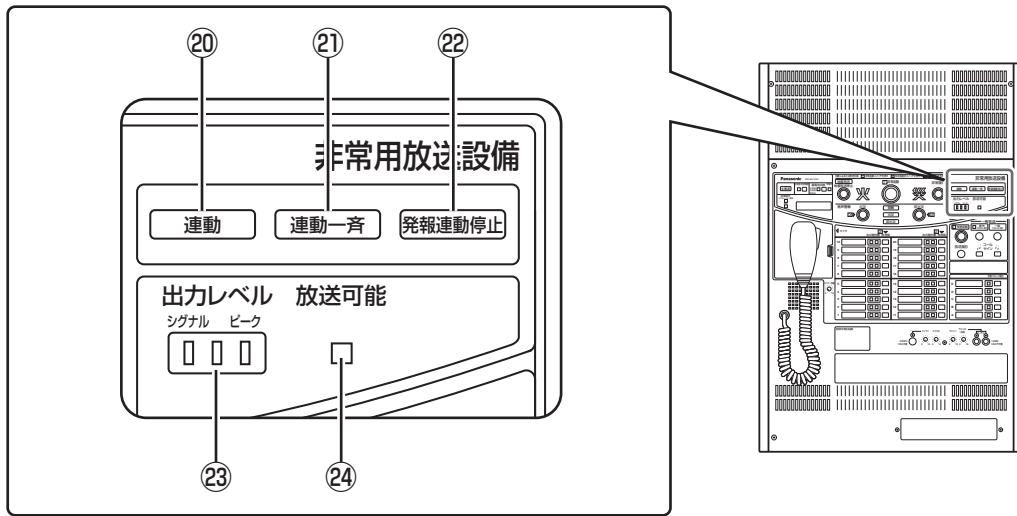
緊急地震放送中に点滅します。

⑲ 地震放送停止スイッチ【地震放送停止】

緊急地震放送を手動で停止させたいときに押します。

各部のなまえと働き

ご使用前に



⑳ 連動表示灯 [連動] (赤色)

点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。設定は書き込みで行います。

㉑ 連動一斉表示灯 [連動一斉] (赤色)

点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。設定は書き込みで行います。

㉒ 発報連動停止表示灯 [発報連動停止] (赤色)

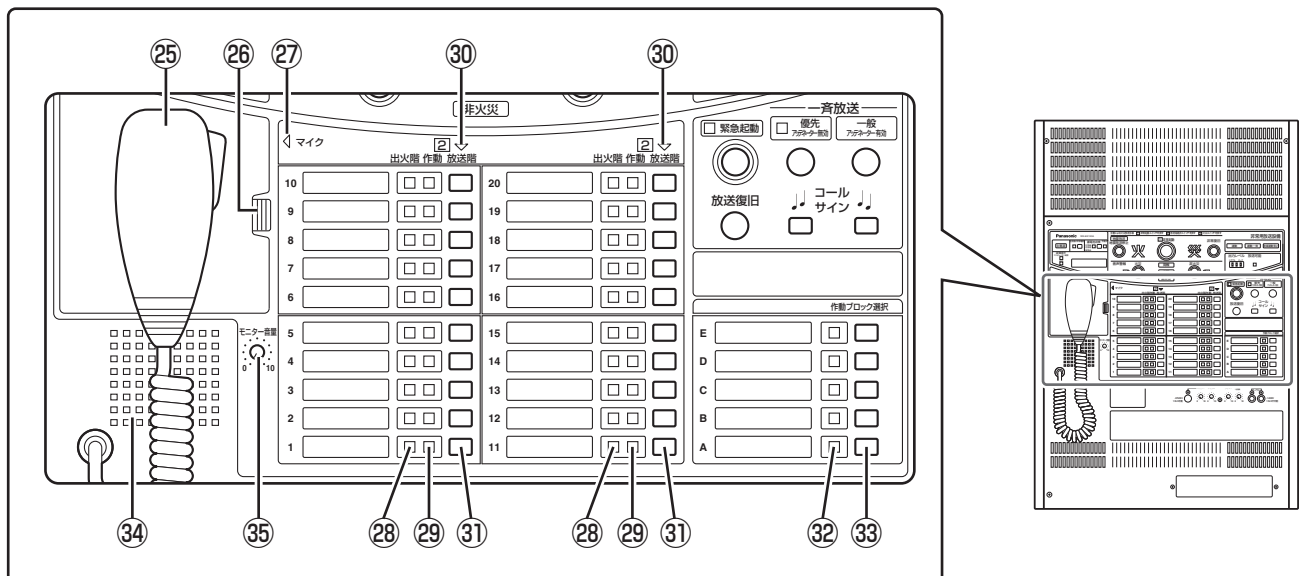
点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信しても発報放送を行わず、火災音信号（ピーピーピー）が本機のモニタースピーカーから鳴ります。設定は書き込みで行います。

㉓ 出力レベルメーター [出力レベル]

- 本機に組み込んだ電力増幅ユニットからの音量の出力レベルを表示します。
- 赤色の表示灯（ピークレベル）が連続点灯しないように接続された機器の音量を調節してください。

㉔ 放送可能表示灯 [放送可能] (緑色)

- 一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押すと点灯し、放送可能となります。
- スイッチを押しても消灯しているときは、優先順位の高い機器から放送されています。（優先順位については39ページ参照）



②5 非常、業務放送兼用マイクロホン（以下、本体マイク）

- マイクを取り、スイッチを押しながら放送します。
- 業務放送中に火災感知器、発信機または非常電話からの起動で非常放送が入った場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送（音声警報）が優先されます。避難誘導などを放送するときは、スイッチを一度離し、再度スイッチを押してください。
- 非常放送時、マイク放送は音声警報より優先されます。適切な避難誘導を行ってください。
- 操作パネル面のマイク 1 に有線マイクなどを接続したときは、本体マイクからの業務放送はできなくなりま
す。（ただし、内蔵メッセージ放送中の本体マイクからの放送は可能です）

②6 マイクドア

ドアを開くと、設定のためのスイッチとメッセージ放送用のスイッチがあります。

②7 マイク指示灯 [マイク]（橙色）

- 非常放送時、点滅します。（業務放送時は点灯・点滅しません）
- マイク放送している間は点灯します。

②8 出火階表示灯 [出火階]（赤色）

非常放送動作時、点灯で出火階を表示します。（階別信号により起動を受けた階の表示灯が点灯します）

②9 階別作動表示灯 [作動]（緑色）

- 放送階選択スイッチ、一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチを押すと点灯します。
- 階別信号などの外部起動で非常動作になったとき、出火階と連動階が点灯します。
- 表示灯が点滅したときは、点滅した階のスピーカー回線が短絡しています。このとき、故障表示の異常表示灯が点灯し、液晶画面に短絡したスピーカー回線番号が表示されます。販売店または保守契約店にご連絡ください。

③0 放送階選択指示灯（橙色）

- 非常時（階別信号など外部起動で非常動作になった場合）点灯します。
- 手動による非常放送動作時（非常起動スイッチを押す）は点滅します。階別信号入力または手動入力（放送階選択スイッチを押す）で点灯します。

③1 放送階選択スイッチ [放送階]

放送したい階を選択するときに押します。（階別作動表示灯が点灯します）再度押すと、選択を解除します。（階別作動表示灯が消灯します）

③2 ブロック作動表示灯 [作動]（緑色）

ブロック選択スイッチを押すと点灯します。

③3 ブロック選択スイッチ [ブロック選択]

ブロック指定した場所に放送するときに押します。（選択したブロックのブロック作動表示灯が点灯します）再度押すか放送復旧スイッチを押すと、選択が解除されます。（ブロック作動表示灯が消灯します）また、あらかじめ設定された内蔵メッセージの放送や外部機器の制御ができます。

③4 モニタースピーカー

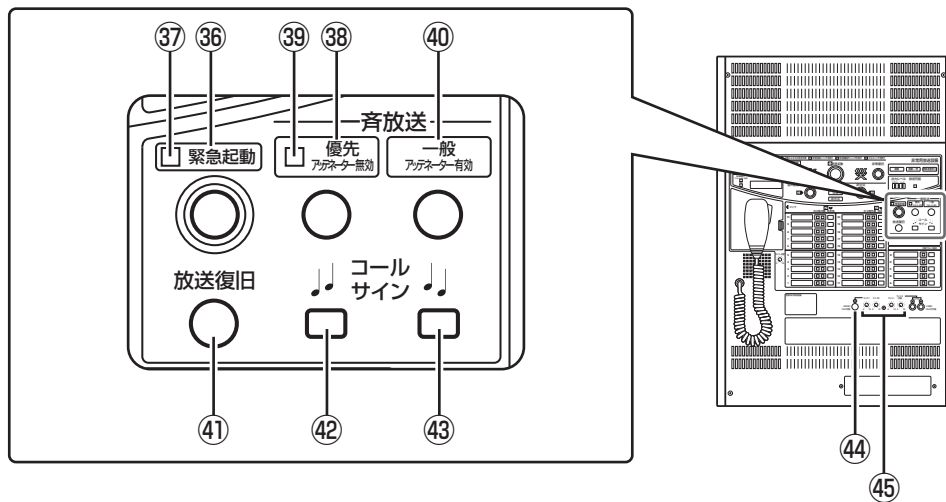
放送状態を確認できます。ハウリング防止のため、マイクスイッチを押すとモニタースピーカーからの音は「切」になります。

③5 モニター音量つまみ

- モニタースピーカーの音量を調節します。
- 非常放送時、緊急放送時は最大音量となります。

各部のなまえと働き

ご使用前に



③⑥ 緊急起動スイッチ [緊急起動]

火災発生以外の災害、事故などの緊急事態が発生し、放送中の業務放送を止めて最優先で放送を行うときに押します。押すと、あらかじめ登録された放送先への緊急放送が可能な状態になります。放送したい階の選択スイッチまたは一斉放送スイッチを押して、放送先を追加、変更することができます。

③⑦ 緊急起動表示灯 (赤色)

緊急起動スイッチを押すと、点灯します。非常リモコンから緊急起動を行うと点灯します。

③⑧ 優先一斉放送スイッチ [優先、アッテネーター無効]

- 全館に一斉放送するときに押します。優先放送表示灯とすべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。
- アッテネーター (音量調整器) の調整音量に関係なく最大音量で放送されます。「OFF」のときでも放送できます。(ただし、3線式配線の場合にかぎります)

③⑨ 優先一斉放送表示灯 (緑色)

優先一斉放送スイッチを押すと、点灯します。非常リモコンから優先一斉放送を行うと点灯します。

④⑩ 一般一斉放送スイッチ [一般、アッテネーター有効]

- 全館に一斉放送するときに押します。すべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。
- アッテネーター (音量調整器) の調整音量で放送されます。「OFF」のときは放送されません。
- 非常放送時および緊急放送時は、アッテネーター (音量調整器) の調整音量に関係なく最大音量で放送されます。「OFF」のときでも放送できます。(ただし、3線式配線の場合にかぎります)

④⑪ 放送復旧スイッチ [放送復旧]

放送終了後に押します。放送階選択スイッチ、ブロック選択スイッチで選択した放送階がすべて解除されます。

④⑫ コールサイン上りスイッチ [♪]

放送可能表示灯が点灯しているときに押すと、上り4音のコールサインが放送されます。コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

④⑬ コールサイン下りスイッチ [♪]

放送可能表示灯が点灯しているときに押すと、下り4音のコールサインが放送されます。コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

④⑭ マイク1入力ジャック (-65 dBV 600 Ωに適合 大形複式:平衡)

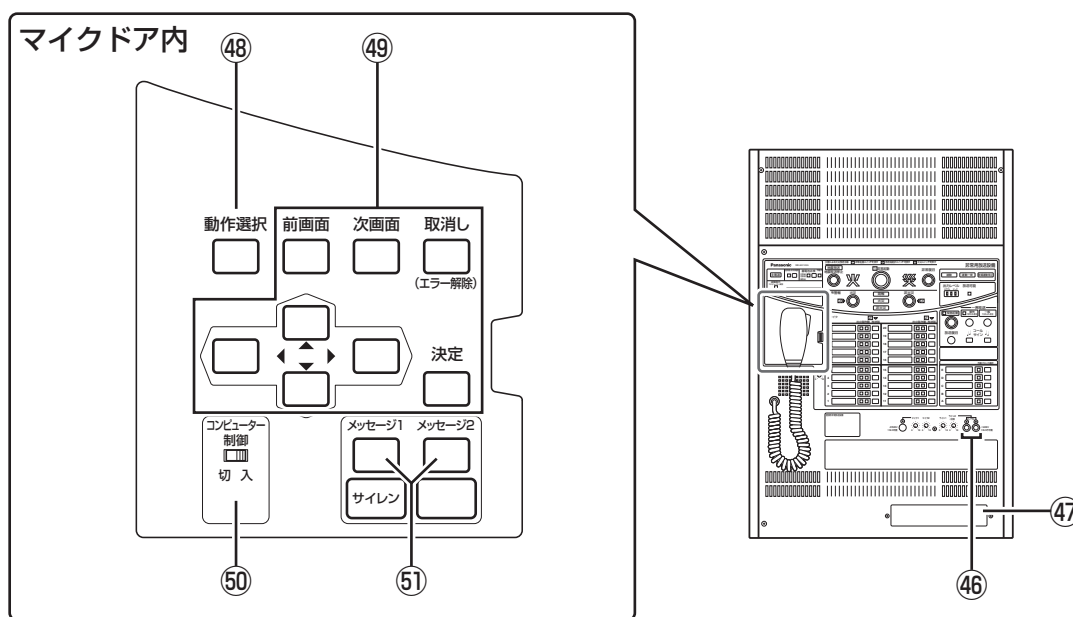
有線マイクなどが接続できます。



・接続したときは、本体マイクで業務放送を行うことはできません。(ただし、内蔵メッセージ放送中の本体マイクからの放送は可能です)

④⑮ 入力音量つまみ

接続した機器の音量を調節します。出力レベルメーターが赤色に連続点灯 (ピークレベル) しないように調節してください。



④⑥ **ライン2／点検入力ピンジャック (−12 dBV 10 kΩ 不平衡)**

CD プレーヤーなどの外部機器が接続できます。(2 系統ありますが、本機内部でモノラルにミックスされます) 内部の端子台のライン 2 に接続した外部機器より優先します。使用しないときは、かぶせてあるピンジャックキャップを外さないでください。

④⑦ **チューナーblankパネル**

ラジオチューナーユニット (別売り) を取り付けることができます。

④⑧ **動作選択スイッチ [動作選択]**

押すたびに「通常動作」→「設定情報」→「点検」→「書き込み」と切り替わります。ただし、非常放送中および緊急放送中に切り替えることはできません。

通常動作：通常はこの状態にします。

設定情報：発信機手動起動設定、発報放送回数、第 1 タイマー、第 2 タイマーの各設定内容を確認する場合はこの状態にします。

点検：総合点検を行う場合はこの状態にします。

書き込み：機器構成、非常放送設定、業務放送設定などの書き込みを行う場合はこの状態にします。

④⑨ **書き込み設定スイッチ**

機器構成、非常放送設定、業務放送設定などの書き込みを行うスイッチです。詳しくは、「工事説明書」をお読みください。

④⑩ **コンピューター制御スイッチ [コンピューター制御]**

- 通常は、必ず「入」にしてください。
- 異常が発見され修理したあと、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常に戻ります。
- コンピューター制御スイッチを「切」にすると、コンピューター異常表示灯とすべての階別作動表示灯が点灯します。
- コンピューター異常時に放送するときは、「切」にすると本体マイクおよびライン入力で一斉放送ができます。

④⑪ **メッセージ1、2放送スイッチ [メッセージ1] [メッセージ2]**

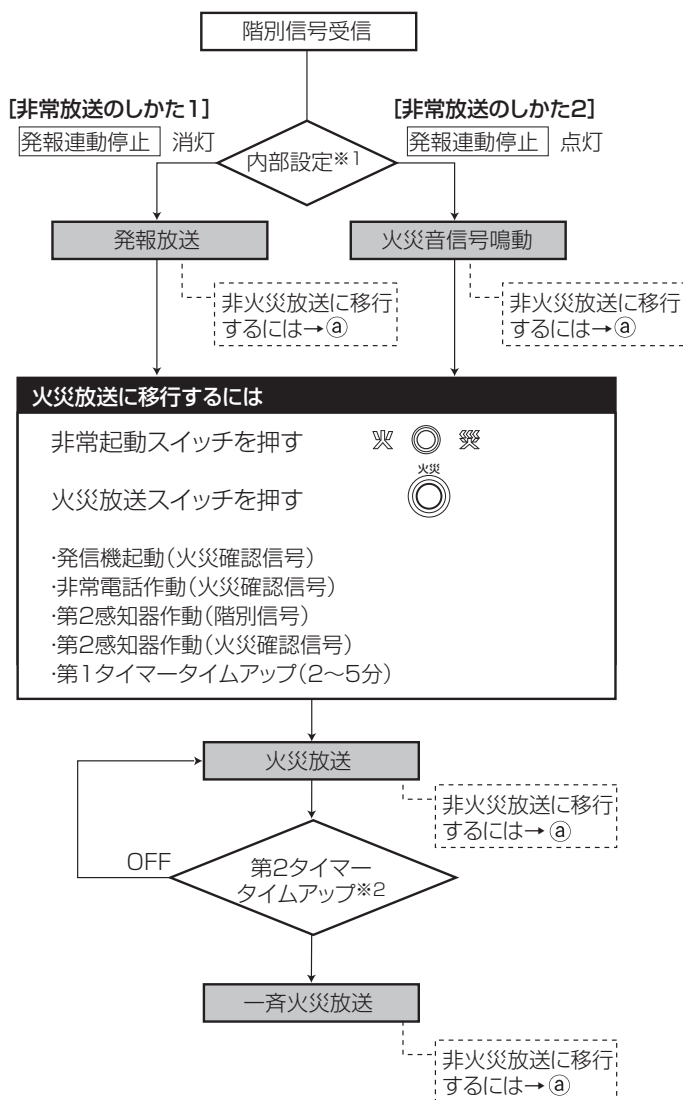
- あらかじめコンピューターに書き込まれた音声を業務放送および緊急放送時に放送させるときに押します。放送するときは、放送階を選択してから押してください。
- 出荷時、メッセージ 1 スイッチには「サイレン音」、メッセージ 2 スイッチには「地震訓練放送 NHK」のメッセージ音声 (内蔵メッセージの 1 番目) が設定されていますが、設定変更可能です。

非常放送のしくみ

概要

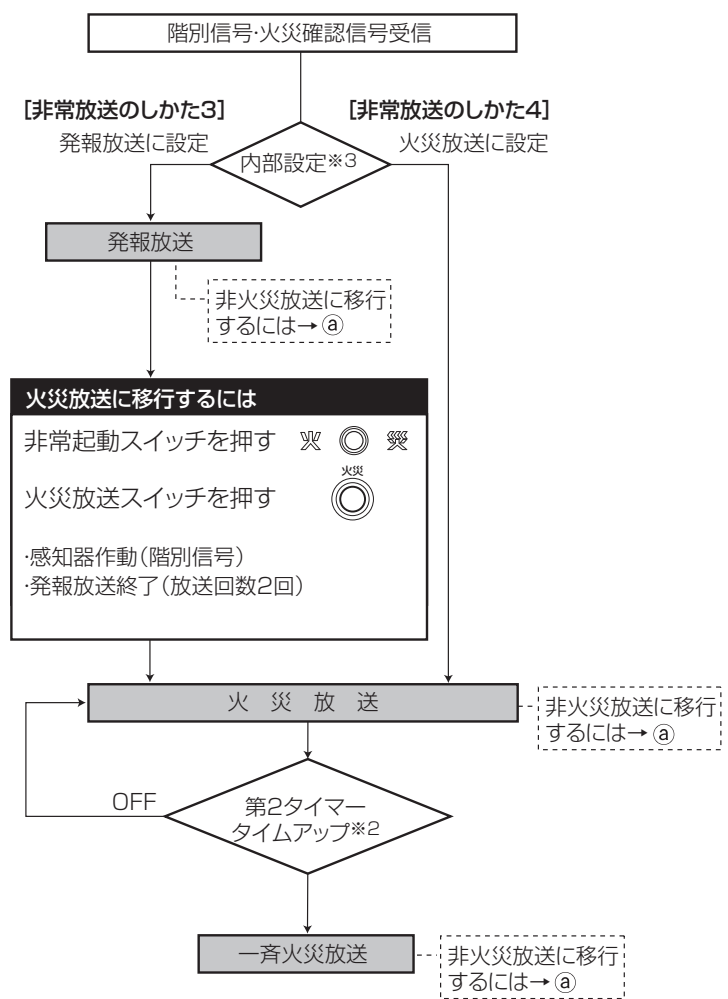
- 非常放送設備は、感知器と連動して自動的に非常放送（発報放送、火災放送）を行います。
- 内部の設定により火災発生時の非常放送手順が異なります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

●感知器起動



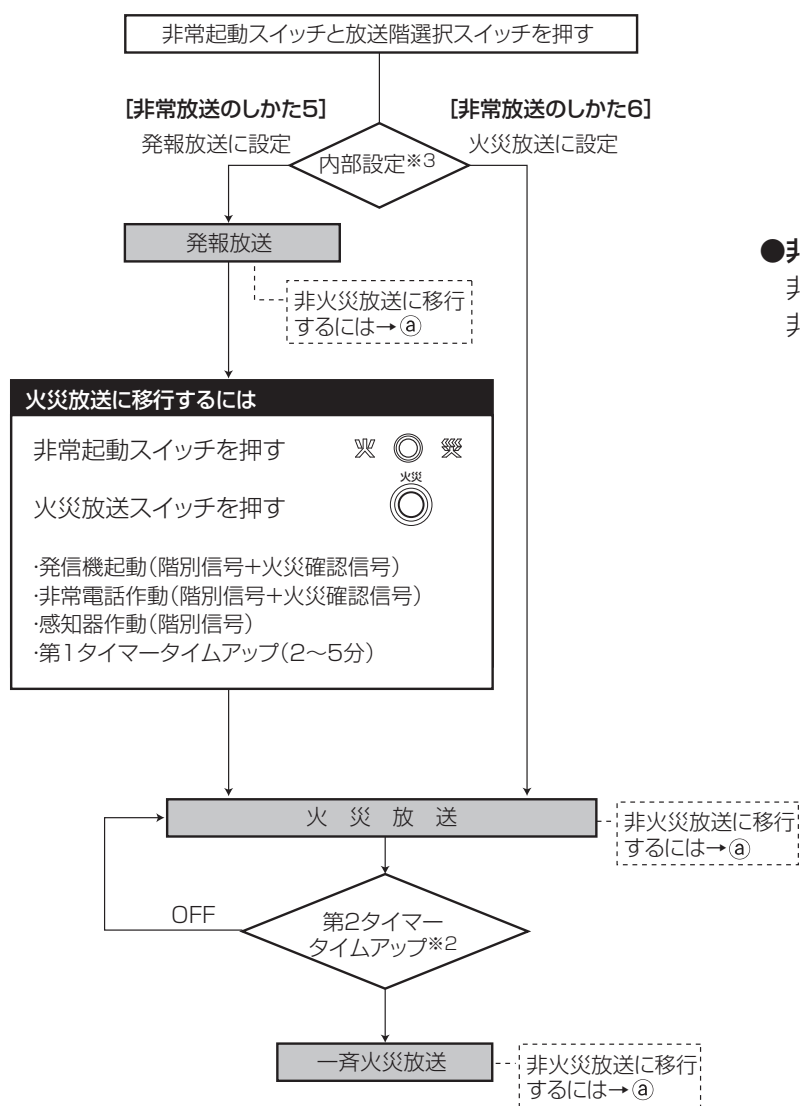
※1 発報連動停止の有無設定
 ※2 一斉火災放送移行時間の設定(OFF、0分、2~5分)

●発信機・非常電話起動



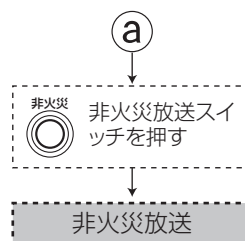
※3 発報放送／火災放送切替の設定内容

●手動起動



※3 発報放送／火災放送切替の設定

●非火災放送に移行するには
非火災放送スイッチを押すことにより
非火災放送に移行できます。



- 階別信号に確認信号がない場合は、感知器起動動作になります。
- 増設階情報（別売り）を使用して階情報変更が可能です。（販売店にご相談ください）

非常放送のしくみ

●マイク放送について

- ・マイク放送は、音声警報より優先して放送されます。状況を把握し、マイクで放送してください。
- ・マイクで業務放送中に火災感知器、発信機または非常電話からの起動で非常放送が入った場合は、マイクでの放送が遮断され非常放送（音声警報）が優先されます。避難誘導などを放送するときはマイクのスイッチを一度離し、再度スイッチを押してください。
- ・マイク放送後は、下記の状態になります。
 - 「発報放送」中のマイク放送後 : 無音、第1タイマー継続
 - 「非火災放送」中のマイク放送後 : 無音
 - 「火災放送」中のマイク放送後 : 第2シグナル音が鳴ります

●放送復旧スイッチを押したあとの動作について

- 「発報放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音、第1タイマー継続
 - 「非火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音
 - 「火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音、第2タイマー継続
- 注) 第2タイマータイムアップによる「一斉火災放送」中は、放送復旧スイッチを押しても復旧しません。
無選択とは、放送階選択スイッチが解除され、階別作動表示灯がすべて消灯している状態をいいます。

●連動表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、出火階と連動階に放送されます。

●連動一斉表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、全館一斉に放送されます。

●第1タイマー設定について

第1タイマー（火災放送移行タイマー）は、2～5分（最大10分）に設定できます。（出荷時は5分に設定）

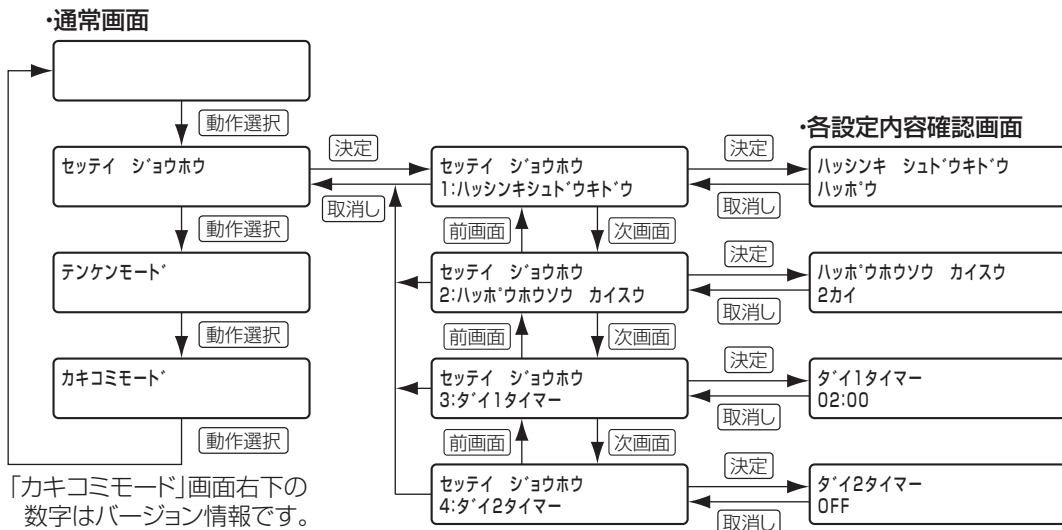
●第2タイマー設定について

第2タイマー（一斉火災放送移行タイマー）は、OFF、0分、2～5分（最大10分）に設定できます。（出荷時は5分に設定）

- OFF : 一斉火災放送に移行しません。
- 0分 : すぐに一斉火災放送に移行します。
- 2～5分 : 設定した時間で一斉火災放送に移行します。

●設定内容の確認について

- ・非常放送の発信機手動起動設定、発報放送回数、第1タイマー、第2タイマーの設定内容の確認ができます。
- ・**動作選択** スwitchを押して「セッテイ ジョウホウ」画面を選択し、**前画面**、**次画面**、**決定**、**取消し** の各switchを押して各設定内容を確認します。



用語の説明

連動一斉	火災感知器と連動し、火災感知器動作時に自動的に全館一斉非常放送できる状態をいいます。
連動	火災感知器と連動し、火災感知器動作時に自動的に出火階と連動階に非常放送できる状態をいいます。
発報連動停止	火災感知器動作時に発報放送をせず、本機のモニタースピーカーから火災音信号が鳴る状態をいいます。
火災音信号	発報連動停止時に、感知器起動で発報放送が放送されずモニタースピーカーから鳴るブザー音（ピーピーピー）のことをいいます。
第一報	はじめに火災報知設備から出力された信号をいいます。その次の信号を第二報といいます。
階別信号	火災感知器が火災を感知したことを知らせるために、火災報知設備より出力される信号をいいます。
火災確認信号	火災が確認されたあとに、火災報知設備から出力される信号をいいます。
第1タイマータイムアップ (火災放送移行タイマー)	階別信号受信後、設定した時間（2～5分）が経過すると自動的に火災放送に移行することをいいます。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。5分以上の時間設定をする場合は、管轄消防署の確認が必要です。
第2タイマータイムアップ (一斉火災放送移行タイマー)	火災放送が出火階、連動階に放送開始されたあと、設定した時間が経過すると自動的に全館への一斉火災放送に移行することをいいます。設定時間はおおむね数分（非常用放送設備の場合は2～5分）とし、最大10分以内と定められています。これ以外の時間設定をする場合は管轄消防署の確認が必要です。第2タイマーを0分に設定したときは、直ちに一斉火災放送に移行します。第2タイマーをOFFに設定したときは、一斉火災放送に移行しません。第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送階の解除はできません。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。
手動連動／個別手動	手動非常起動から放送階選択スイッチを押したとき、手動連動の場合は、連動階も一緒に自動的に放送されます。個別手動の場合は、選択した放送階選択スイッチのところに放送され、連動階には放送されません。
アッテネーター有効／無効	スピーカーの音量調整器（アッテネーター）の設定がアッテネーター有効の場合は、音量調整器の調整音量で放送されます。アッテネーター無効の場合は、音量調整器の調整音量に関係なく、最大音量で放送されます。スピーカーの音量調整器の当社名称は、スピーカー取り付けタイプがアッテネーター、壁埋め込み・ボックス取り付けタイプがボリュームコントローラーです。

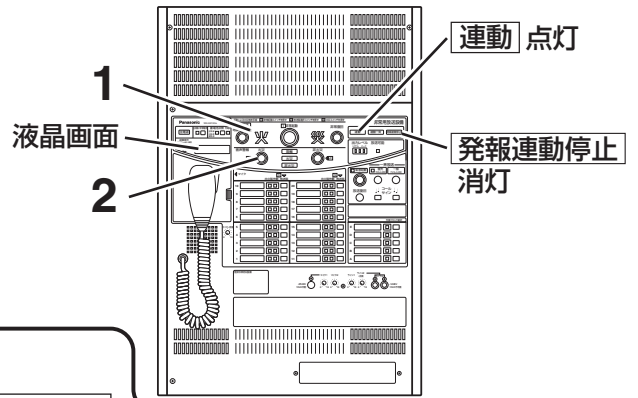
非常放送のしかた（1） 感知器起動

発報連動停止 表示→消灯（出荷時：消灯）

連動 表示→点灯



（階別信号入力）
感知器から
信号が入る。
（第一報）



1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

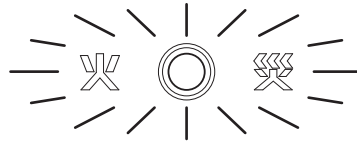
- 発報放送終了後、モニタースピーカーから火災音信号（ピーピーピー）が放送されます。

液晶画面

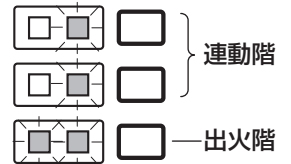
カサイカンチキ キトウ
→カサイ/ヒカサイ カクニソセヨ

↑交互に表示

カサイ →カサイスイッチ オセ
ヒカサイ→ヒカサイスイッチ オセ



2 出火階 作動 放送階



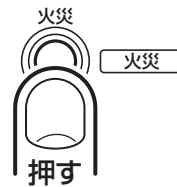
2 操作を選択する。

- 火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動（火災確認信号）★
- 非常電話作動（火災確認信号）★
- 第2感知器作動（階別信号）★
- 第2感知器作動（火災確認信号）★
- 第1タイマータイムアップ（2～5分）



★印のときは発報放送終了後、火災放送に移行します。

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）

「火事です！火事です！〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ（設定時間 OFF、0分、2～5分、最大10分）

- 「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

4 全館に「火災放送」が放送される。（一斉火災放送）

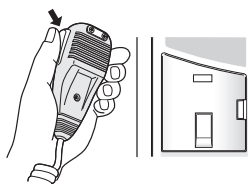
液晶画面

イッセイ カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

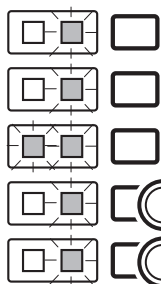
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉**表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 発報放送時にマイク放送したあとは無音となります。（第1タイマーは継続します）
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。



- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

出火階

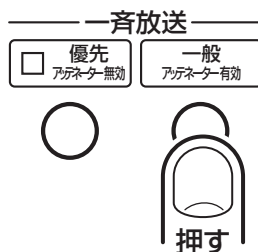
押す

押す

追加階

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

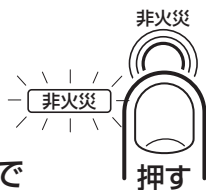
「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

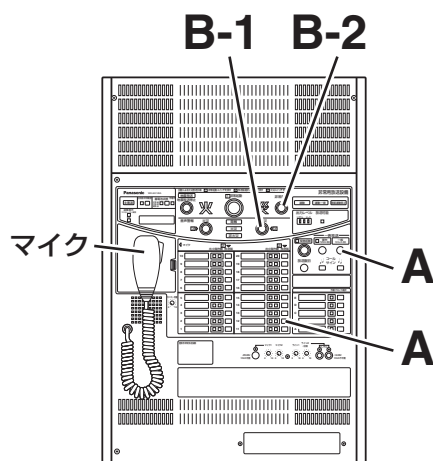
- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



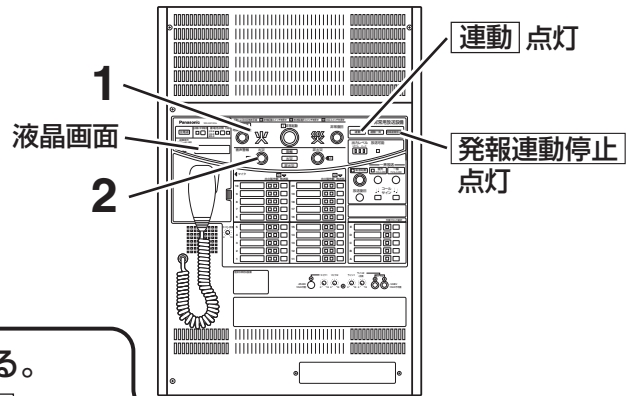
非常放送のしかた (2) 感知器起動

発報連動停止 表示→点灯 (出荷時：消灯)

連動 表示→点灯



(階別信号入力)
感知器から
信号が入る。
(第一報)



操作

1 モニタースピーカーから火災音信号が放送される。

ピー、ピー、ピー、(火災音信号)
火災感知器が作動した。火災のときは火災放送スイッチを押せ。
火災でないときは非火災放送スイッチを押せ。

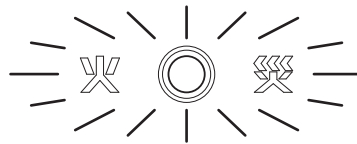
連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

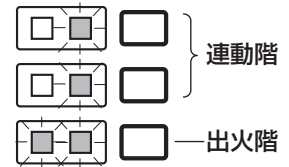
カサイカンチキ キトウ
→カサイ/ヒカサイ カクニンセヨ

↓交互に表示

カサイ →カサイスイッチ オセ
ヒカサイ→ヒカサイスイッチ オセ



2 ▾
出火階 作動 放送階



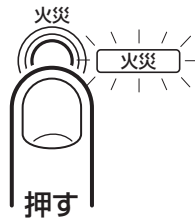
2 操作を選択する。

●火災を確認したとき

**火災放送スイッチまたは非常起動スイッチ
を押す。**

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動 (火災確認信号)
- 非常電話作動 (火災確認信号)
- 第2感知器作動 (階別信号)
- 第2感知器作動 (火災確認信号)
- 第1タイマータイムアップ (2~5分)



- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です！火事です！〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分、最大10分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

4 全館に「火災放送」が放送される。(一斉火災放送)

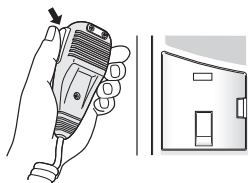
液晶画面

イッセイ カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

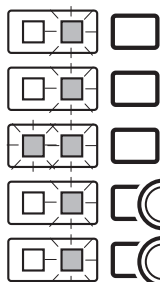
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- [運動一斉]表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災信号音（ピーピーピー）放送時にマイク放送したあとは無音となります。（第1タイマーは継続します）
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。



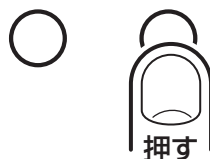
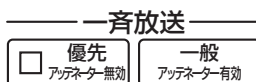
- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

出火階

追加階
押す
押す

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

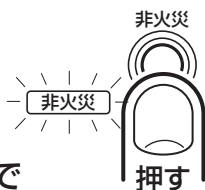
「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

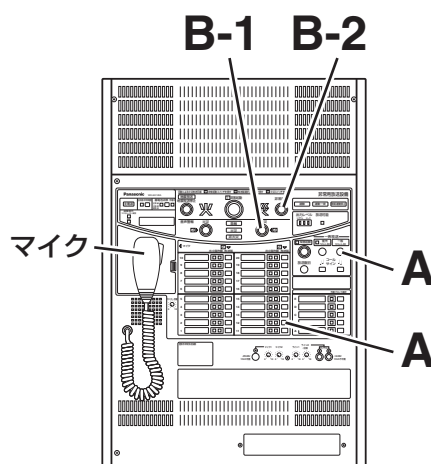
- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



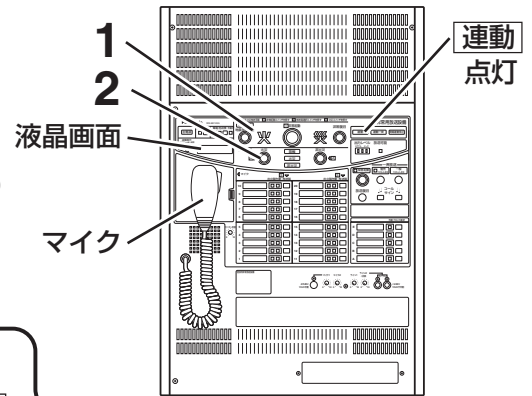
非常放送のしかた (3) 発信機・非常電話起動 (発報)

「発報放送」に設定の場合 (出荷時: 発報放送)

連動 表示 → 点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る。
(第一報)



操作

1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

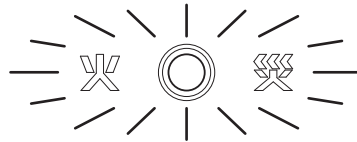
連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

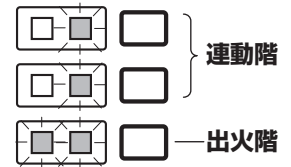
ハッシンキ キトウ
→カサイ/ヒカサイ カクニンセヨ

↓交互に表示

カサイ →カサイスイッチ オセ
ヒカサイ→ヒカサイスイッチ オセ



2 出火階 作動 放送階



2 操作を選択する。

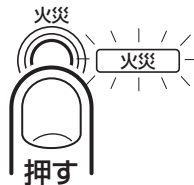
●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 感知器作動 (階別信号) *
- 発報放送終了 (放送回数2回)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に移行します。



●状況に応じてマイクで放送する
→Aへ



・発報放送時にマイク放送したあと、マイクスイッチを切ると火災放送に移行します。

●火災でないことを確認したとき
→Bへ

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分、最大10分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

4 全館に「火災放送」が放送される。(一斉火災放送)

液晶画面

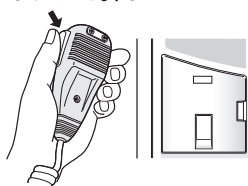
イッセイ カサイ ホウソウチュウ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

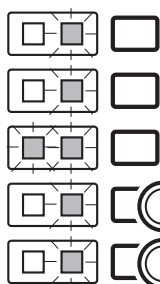
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- [連動一斉]表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。



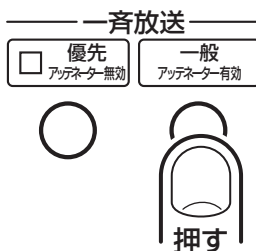
- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

出火階

押す } 追加階
押す }

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

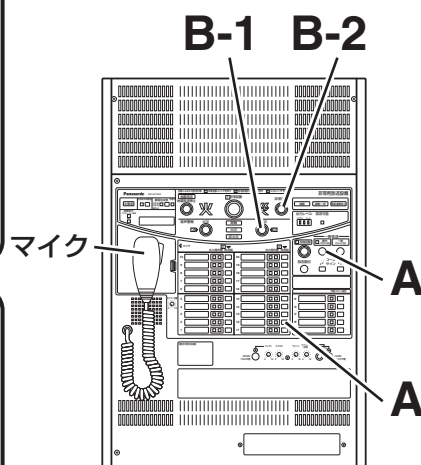
「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



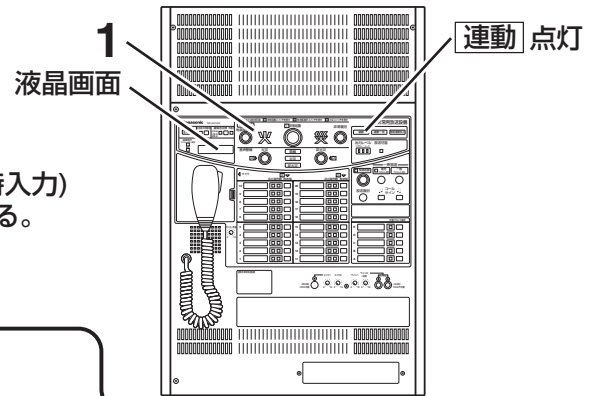
非常放送のしかた (4) 発信機・非常電話起動 (火災)

「火災放送」に設定の場合 (出荷時：発報放送)

連動表示 → 点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る。
(第一報)



1 出火階、連動階に火災放送が放送される。

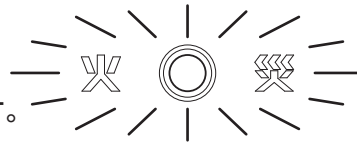
ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「火事です！火事です！○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

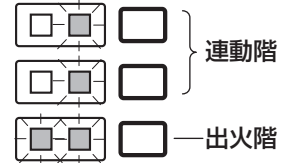
液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ
- 火災でないことを確認したとき → Bへ



2 出火階 作動 放送階



第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分、最大10分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

2 全館に「火災放送」が放送される。(一斉火災放送)

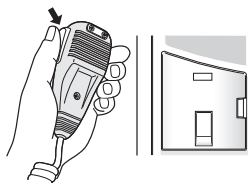
液晶画面

イッセイ カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ
- 火災でないことを確認したとき → Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

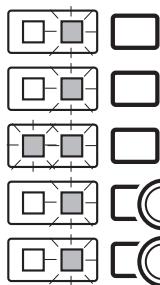
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- [連動一斉]** 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。



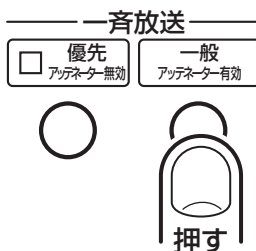
- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

出火階

追加階
押す
押す

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

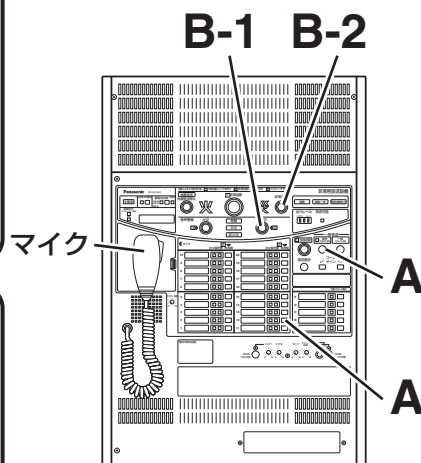
「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧

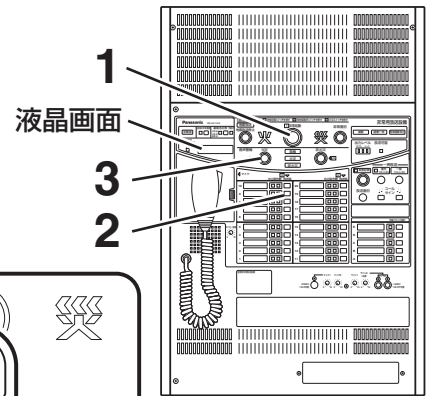


非常放送のしかた (5) 手動起動 (発報)

「発報放送」に設定の場合 (出荷時: 発報放送)



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは、17ページをご覧ください。



1 非常起動スイッチを押す。

●放送階選択指示灯が点滅します。

放送階選択スイッチを押せ (音声指示)

液晶画面

ヒシ' ヨウ ホウソウ キド' ウ
→ホウソウカイ スイッチ オセ



2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

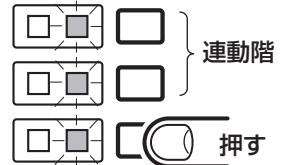
液晶画面

ヒシ' ヨウ ホウソウ
→カサイ/ヒカサイ カクニンセヨ

↑交互に表示

カサイ →カサイスイッチ オセ
ヒカサイ→ヒカサイスイッチ オセ

出火階 作動 放送階



- 放送階・連動階の階別作動表示灯が点灯。
- 放送階選択指示灯が点灯。

3 操作を選択する。

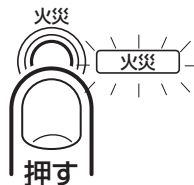
●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動 (火災確認信号+階別信号) *
- 非常電話作動 (火災確認信号+階別信号) *
- 感知器作動 (階別信号) *
- 第1タイマータイムアップ (2~5分)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に移行します。



●マイク放送 →Aへ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して流れます。

●火災でないことを確認したとき →Bへ

4 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です! 火事です! (〇階で) *火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

※階別信号を受信して火災放送に移行したとき、階情報 (〇階で) が自動的に文章に追加されます。

液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分、最大10分)

●「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

5 全館に「火災放送」が放送される。(一斉火災放送)

液晶画面

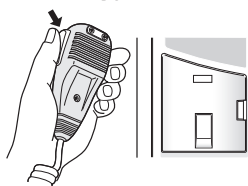
イッセイ カサイ ホウソウチュウ

●状況に応じてマイクで放送する →Aへ

●火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

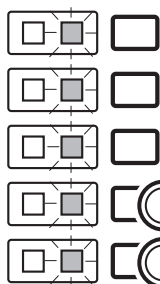
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 発報放送時と非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。

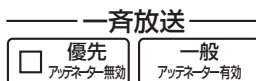


- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

追加階
押す
押す

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

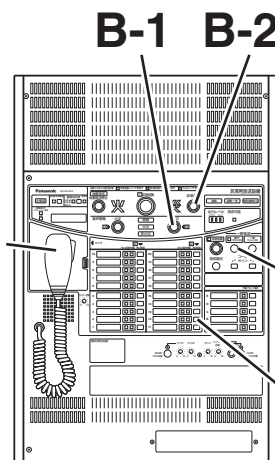
液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



マイク



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧

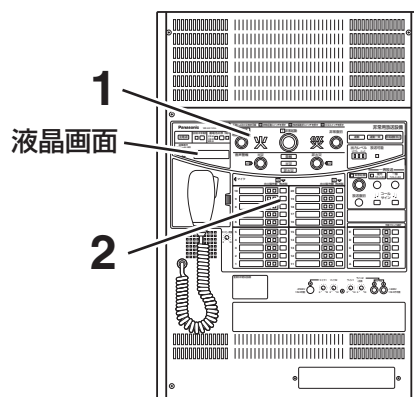


非常放送のしかた (6) 手動起動 (火災)

「火災放送」に設定の場合 (出荷時: 発報放送)



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは、17ページをご覧ください。



操作

1 非常起動スイッチを押す。

- 放送階選択指示灯が点滅します。

放送階選択スイッチを押せ (音声指示)

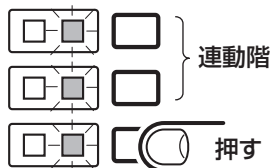
液晶画面

ヒジ' ヨウ ホウソウ キト' ウ
→ホウソウカイ スイッチ オセ



2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

出火階 作動 放送階



- 放送階・連動階の階別作動表示灯が点灯。
- 放送階選択指示灯が点灯。

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です! 火事です! 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分、最大10分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送には移行しません。

4 全館に「火災放送」が放送される。(一斉火災放送)

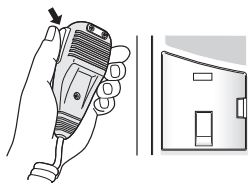
液晶画面

イッセイ カサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

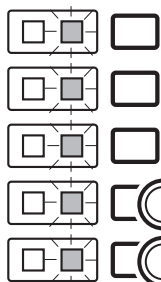
スイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを切ると第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

●放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する。

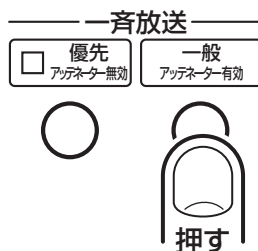


- 放送階を取り消すときは取り消す階のスイッチを押します。（階別作動表示灯が消灯します）

追加階
押す
押す

●一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す。



- 一般一斉放送スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す。

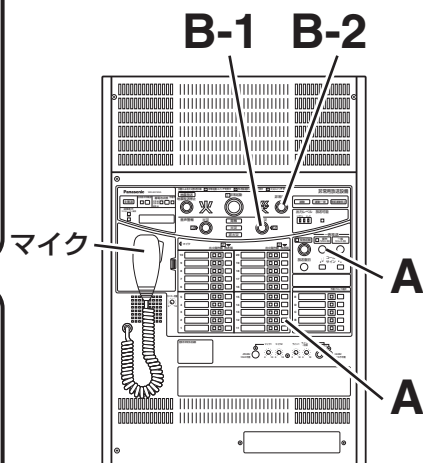
「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

液晶画面

ヒカサイ ホウソウチュウ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



緊急地震放送について

■ 緊急地震放送とは

緊急地震速報受信端末からの起動信号により、自動で地震放送ができます。

緊急地震放送は、放送の優先順位が最上位で、この放送を行っている間は、非常放送、緊急放送、業務放送、およびマイク放送は行えません。また、停電時も非常放送用の非常電源により放送が可能です。

■ 緊急地震放送の動作

緊急地震速報受信端末より緊急地震速報を受信



1 地震放送中表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送される。

チャイム音2回。「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

- あらかじめ設定した階すべてに放送されます。
(手動操作により、放送階に追加・削除を行うことはできません)
- マイク放送はできません。

液晶画面

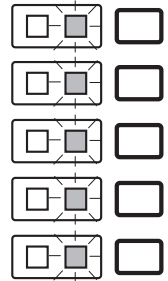
ジ' シン ホウソウチュウ
テイシ→ジ' シンテイシ オセ

↓交互に表示

ジ' シン ホウソウチュウ
マイクホウソウ テ' キマセン

※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。

2 出火階 作動 放送階

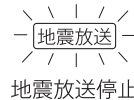


A 緊急地震放送を停止させたいときは

A-1 地震放送停止スイッチを押す。

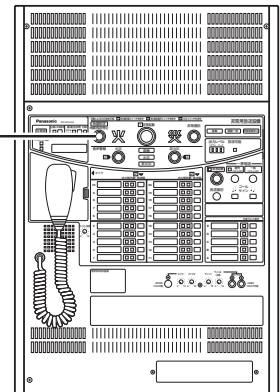
緊急地震放送が停止します。

※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。



押す

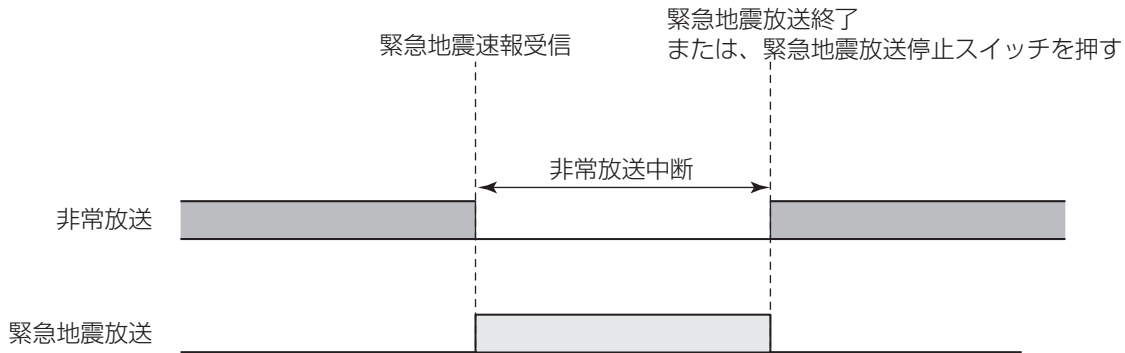
A-1



■ 緊急地震放送を行っているときの非常放送について

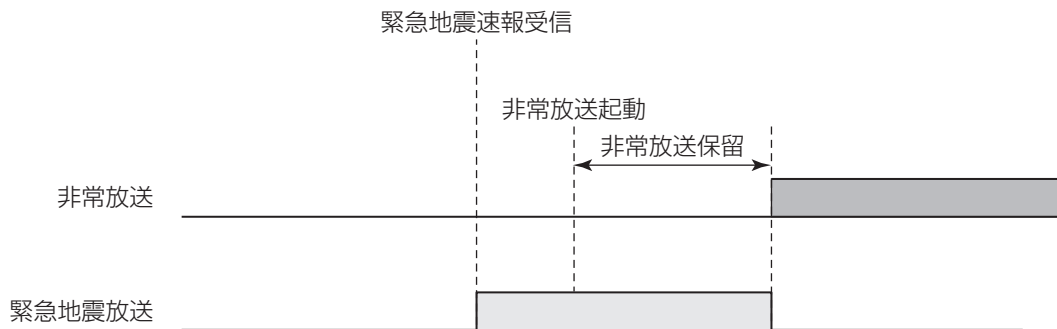
緊急地震放送は、非常放送より優先して放送されます。緊急地震放送中の非常放送の動作は以下の通りです。

●非常放送中に緊急地震速報を受信したとき



- 非常放送中に緊急地震速報を受信した場合、非常放送は中断し、緊急地震放送に切り換わります。

●緊急地震放送中に非常放送起動入力を受信したとき



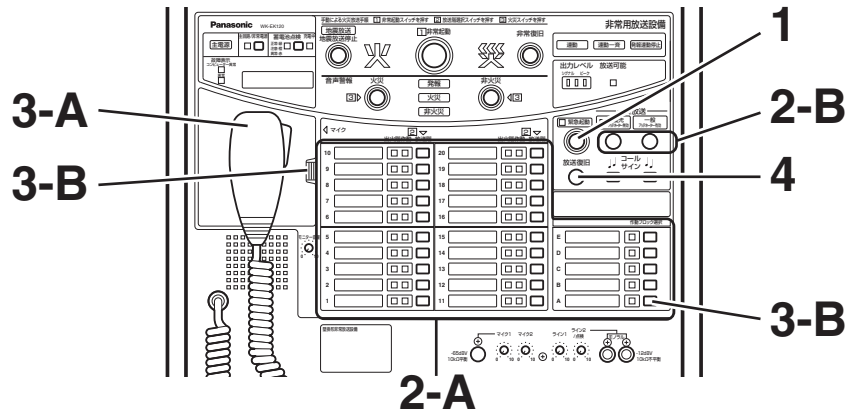
- 緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留状態になります。
- 緊急地震放送中は、非常放送に関するスイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作は無効となりますが、非常放送の階別信号や火災確認信号を受信した場合は保留状態となり、緊急地震放送終了後の非常放送状態に反映されます。
- 緊急地震放送中に、非常放送を優先させたいときは、地震放送停止スイッチを押して、緊急地震放送を終了させる必要があります。

緊急放送のしかた

緊急事態発生時に、緊急放送を行うことができます。

※業務放送より優先して放送ができます。

太い矢印は操作の手順を示します。



操作

1 緊急起動スイッチを押す。

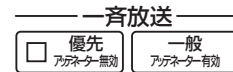


あらかじめ緊急起動スイッチに放送先が登録されている場合は、登録された放送先の階別作動表示灯が点灯します。

2-A 放送したい場所の放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押す。

2-B 一斉放送するときには、一斉放送スイッチを押す。

アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。



※一般一斉放送スイッチは、優先一斉放送スイッチと同じ動作になります。

●緊急放送時の液晶画面表示（画面は点滅します）
緊急放送時の液晶画面は、以下の表示になります。

・緊急起動スイッチが押されたとき
緊急起動端子がメイクされたとき

キンキュウ モード

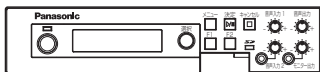
・放送階選択スイッチが押されたとき

キンキュウ ホウソウチュウ

地震計などから放送する。

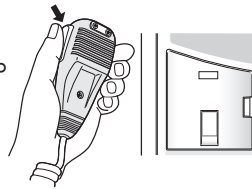
自動的に設定されたメッセージと放送先が選択されます。

デジタルICプレーヤーなどの外部音源機器から放送する。



デジタルICプレーヤーなどを「再生」にします。
操作方法については、お手持ちのデジタルICプレーヤーなどの取扱説明書をお読みください。

3-A マイクで放送する。

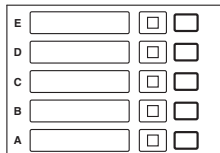
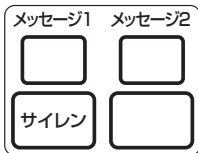


3-B 内蔵メッセージを放送する。

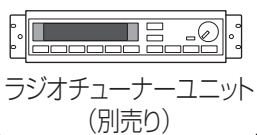
あらかじめメッセージスイッチ1、2やブロック選択スイッチに設定された内蔵メッセージを選択します。

マイクドア内

ブロック選択スイッチ



ラジオを放送するとき



- ①電源スイッチを押します。
- ②希望の局を選局します。
- ③音量つまみを7~8に合わせます。

放送されます

4 放送終了後は、放送復旧スイッチを押してください。すべての放送先の表示灯が消えます。

放送復旧



キンキウ ホウソウチュウ
???

画面上の「???」は起動した入力の名称です。

業務放送のしかた

太い矢印は操作の手順を示します。

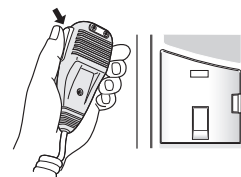
操作

1-A 個別に放送するとき
放送したい場所の放送階選択
スイッチまたは、ブロック選
択スイッチを押します。

2 放送の前に
コールサイン
スイッチを押してく
ださい。



3 本体マイクで放送する。

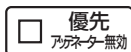


マイク 1 (2)のマイ
クロホンでアナウン
ス放送するとき



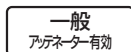
1-B 一斉放送するとき
一斉放送スイッチを押します。

・優先一斉放送スイッチ



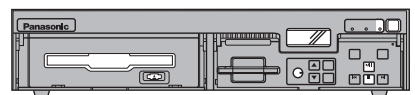
〔最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）
がOFFでも放送できます。〕

・一般一斉放送スイッチ

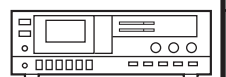


〔アッテネーター（音量調整器）で
調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。〕

CDミュージックプレーヤーを放送
するとき



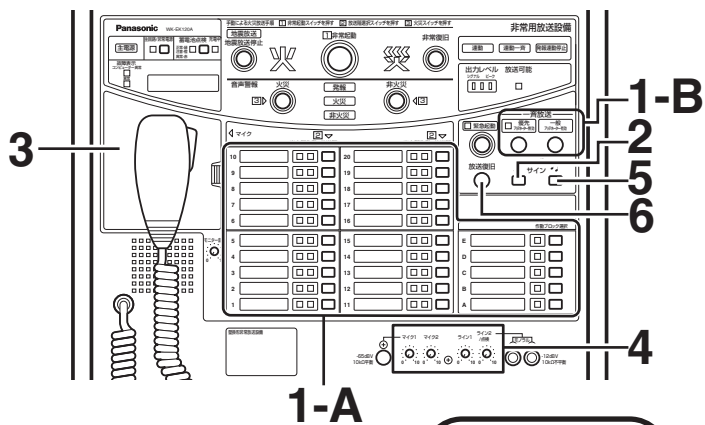
テープレコーダーや
CDを放送するとき




ラジオを放送するとき




ラジオチューナーユニット
（別売り）



5 放送の後に
コールサイン
スイッチを押し
てください。

コール
サイン 




4 マイク1 (2)
音量つまみを
調節します。

マイク1




ライン1 音量つま
みを調節します。

ライン1



ライン2 音量つま
みを調節します。

ライン2/点検

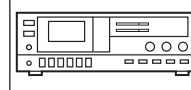


CDミュージックプレー
ヤーを「再生」にします。

〔操作方法については、お手持ちの
CDミュージックプレーヤーの取扱
説明書をお読みください。〕

テープレコーダーやCDプレー
ヤーを「再生」にします。


〔操作方法につい
ては、テープレコー
ダーやCDプレー
ヤーの取扱説明書
をお読みください。〕



①電源スイッチを押します。
②希望の局を選局します。
③音量つまみを7~8に合わせ
ます。

6 放送終了後は、放送
復旧スイッチを押し
てください。すべ
ての放送先の表示灯が
消えます。

放送復旧



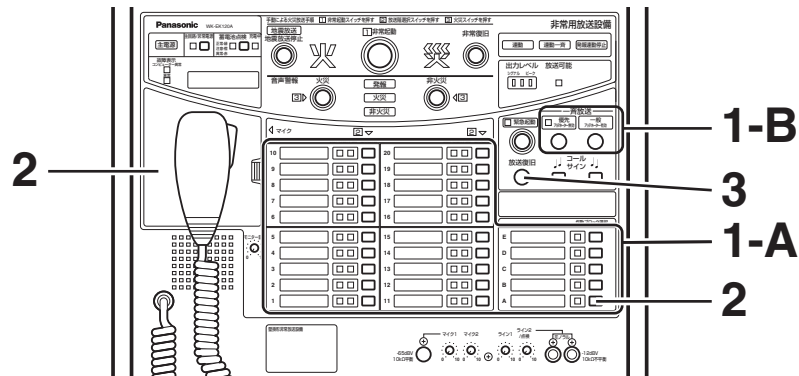
放送されます

※音量つまみの目盛は、7か8が目安ですが正しくは、出力レベル表示
灯の赤色が連続点灯しないように設定してください。

業務放送のしかた

●内蔵メッセージの放送

- あらかじめ各スイッチに設定されている内蔵メッセージを放送できます。
- 放送階選択スイッチやブロック選択スイッチ、一斉放送スイッチを押して放送先を選択します。メッセージスイッチ 1 または 2 や、メッセージが書き込まれたブロック選択スイッチを押して内蔵メッセージを選択します。
- 出荷時、メッセージ 1 スwitchには「サイレン音」、メッセージ 2 スwitchには「地震訓練放送 NHK」のメッセージ音声（内蔵メッセージの 1 番目）が設定されていますが、設定変更可能です。



操作

1-A 放送したい場所の放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押します。

1-B 一斉放送するときは、一斉放送スイッチを押します。

優先
アッテネーター無効



〔最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）が
OFFでも放送できます。〕

一般
アッテネーター有効



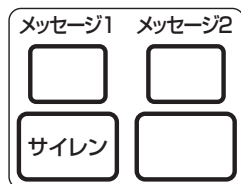
〔アッテネーター（音量調整器）で
調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。〕

2 内蔵メッセージを放送する

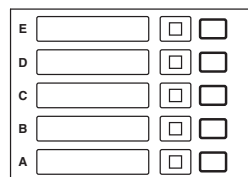
メッセージスイッチ 1、2 やブロック選択スイッチに設定された内蔵メッセージを選択します。

※メッセージスイッチは 1 回押すと連続して繰り返し放送されます。停止する場合は、もう一度押します。

マイクドア内



ブロック選択スイッチ



放送されます

3 放送終了後は、放送復旧スイッチを押してください。すべての表示灯が消えます。

放送復旧



●ライン入力（1、2、3）の放送

- 接続する機器に合わせて、2種類の放送ができます。
 - プログラムコントローラー等で自動放送される機器の場合
外部制御入力の設定されたライン（1、2、3）に接続すると、外部制御入力起動して、あらかじめ設定された放送先に放送されます。
 - カセットデッキやCDプレーヤーなど、動作時に制御信号を出す機能がない機器の場合
ライン1、2入力に接続された機器の音源が、本機の放送階選択スイッチやブロック選択スイッチ、一斉放送スイッチにより選択された放送先に放送されます。このときは、ライン1、2入力に外部制御入力の設定はされていません。



- ライン入力（1、2、3）を外部制御入力で起動させる設定のときは、他の操作（放送階選択スイッチを押すなど）では、動作させることはできません。

●アナウンス入力の放送

- アナウンス起動入力にあらかじめ放送先を設定して、起動することによりデジタルICプレーヤー等から放送することができます。

●チャイム入力の放送

- チャイム起動入力にあらかじめ放送先を設定して、起動することにより、チャイム放送ができます。チャイム用音源は、内蔵の音源（ウェストミンスターの鐘、ウェストミンスターの鐘＋重音3回、おもいで から選択）または、外部に接続するミュージックチャイム等から放送することができます。

●業務放送時の液晶表示内容

キョウムホウソウチュウ
ホントイ

画面内の放送内容は以下の8種類が表示されます。

放送内容	液晶表示内容
本体放送	ホントイ
非常リモコン1～4	ヒジョウRM1（または2～4）
マルチリモコン1～4	マルチRM1（または2～4）
リモコンマイク	イッパンRM
外部制御1～5	ガイブセイギョ1（または2～5）
チャイム放送	チャイム
アナウンス放送	アナウンス

※本体マイク、コールサインは本体放送に含まれます。

- 液晶画面に業務放送の各機器からの放送が表示されます。

業務放送のしかた

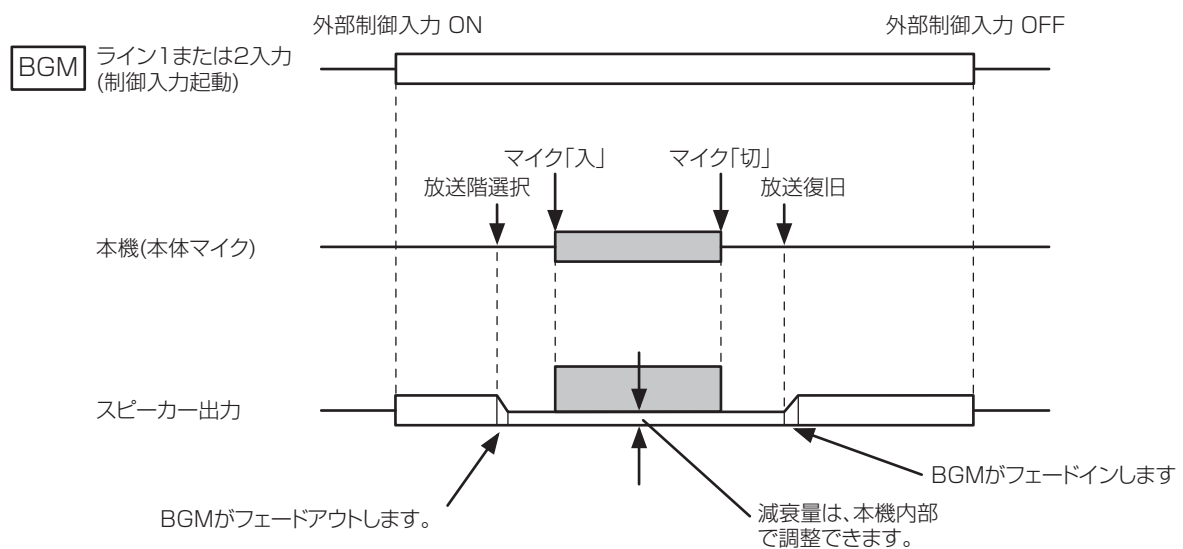
●BGM 制御の放送

- ライン 1 やライン 2 入力に接続された BGM やラジオチューナーの放送中に、本機の放送階選択スイッチやブロック選択スイッチを押すと、BGM やラジオチューナーの放送のレベルを減衰させて、マイク 1、2 入力のマイク放送ができます。
- 書き込み設定により、本体マイク、チャイム入力、アナウンス入力、コールサイン、内蔵メッセージの放送時も BGM 制御することができます。

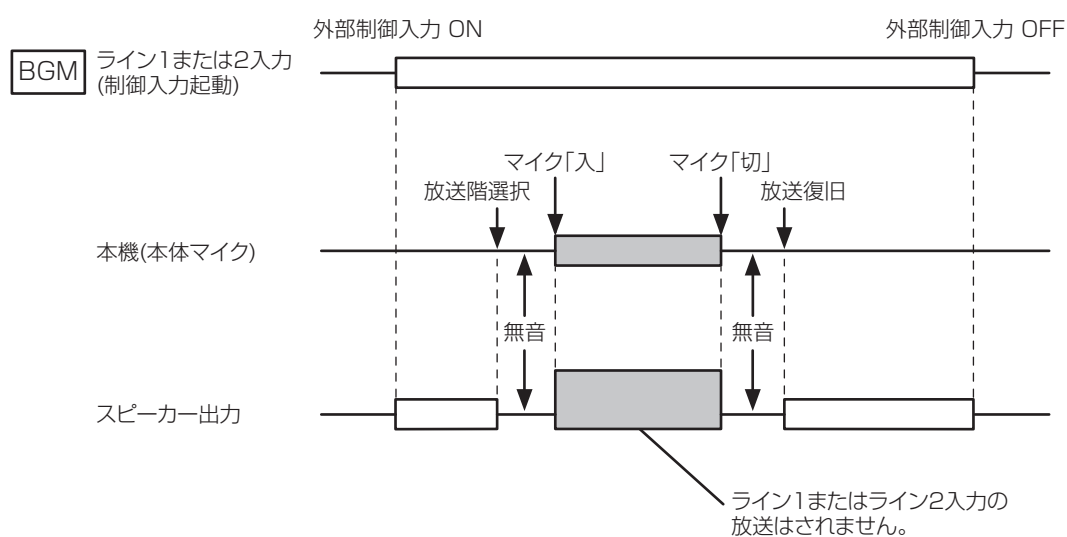


- BGM 制御あり（出荷時設定）にすると、ライン 1 やライン 2 に接続した機器の放送は、ミキシングして放送されます。
BGM 制御なしに設定したときは、ライン 1 やライン 2 に接続した機器の放送はされません。

(1) BGM 制御あり設定で本機の本体マイクで放送した場合の例（出荷時設定）



(2) BGM 制御なし設定で本機の本体マイクで放送した場合の例



■ 優先順位について

●各放送と優先順位の関係

各放送状態は、最優先で非常放送、次に緊急放送、業務放送の順位になります。

優先順位	放送状態
1	緊急地震放送
2	非常放送
3	緊急放送
4	業務放送

●業務放送の設定可能優先順位

業務放送は、各起動入力を優先順位 1～3 位まで設定できます。出荷時とデータ初期化時は、すべての起動入力が、第 2 位に設定されています。

起動入力		優先順位		
		1	2	3
本体スイッチ（放送階選択スイッチ、ブロック放送スイッチ）		○	○	○
非常リモコン	1	○	○	○
	2	○	○	○
	3	○	○	○
	4	○	○	○
マルチリモコン	1	○	○	○
	2	○	○	○
	3	○	○	○
	4	○	○	○
リモコンマイク		○	○	○
外部制御入力	1	○	○	○
	2	○	○	○
	3	○	○	○
	4	○	○	○
	5	○	○	○
アナウンス制御入力		○	○	○
チャイム制御入力		○	○	○

設定可能なものを○印で示しています。

※本機は、同順位の場合、後押し優先方式を採用しており、常にあとから押したスイッチ（起動入力）が優先されます。

●優先同順位の後押し優先で放送権を取られたときの対応

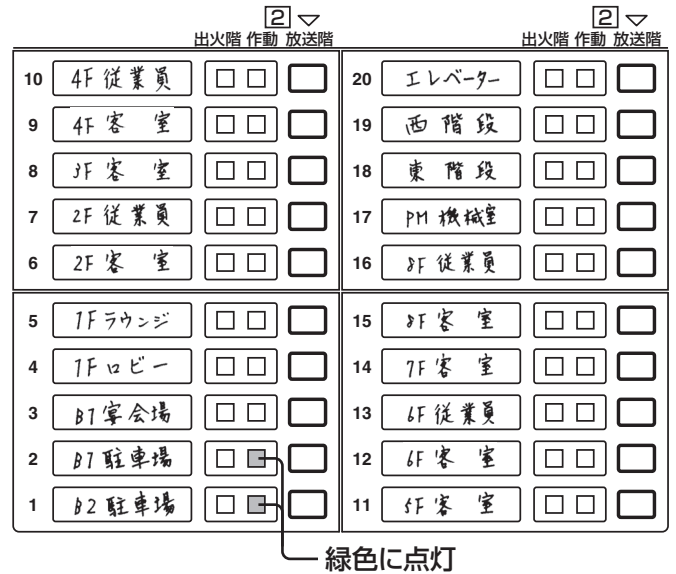
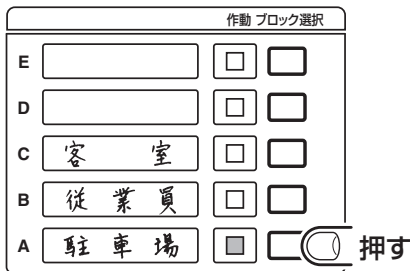
- ① 本機からの放送を解除するとき
放送していた階の放送階選択スイッチまたは放送復旧スイッチを押して、選択を解除してください。放送先は選択されたままになりますので、解除が必要です。
- ② 本機の放送を優先させたいとき
放送階選択スイッチを2回押してください。階別作動表示灯が点灯して、放送できます。「選択解除」→「再選択」の手順のため、2回押します。
- ③ 後押しの放送が終了してから放送するとき
後押しの放送が終了して、放送可能表示灯および階別作動表示灯が点灯すると放送ができます。

■ ブロック放送について

A～Eのブロック選択スイッチにより、階とは無関係に、同一放送したい場所をまとめて放送することができます。

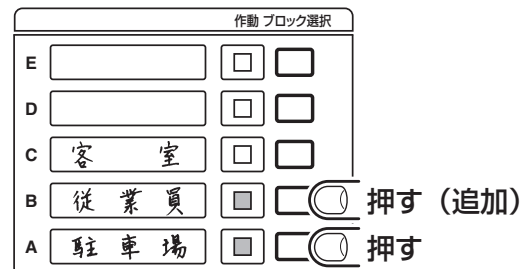
- たとえば駐車場だけに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「駐車場」を押します。
- B1、B2 駐車場の階別作動表示灯が点灯します。

操作



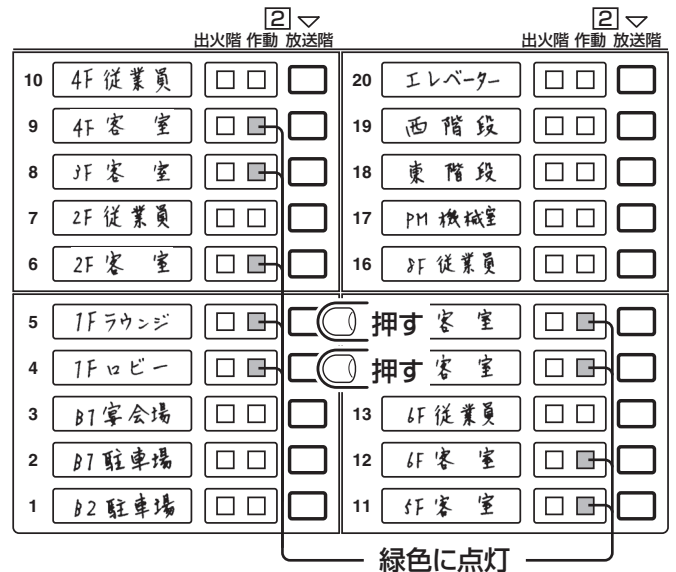
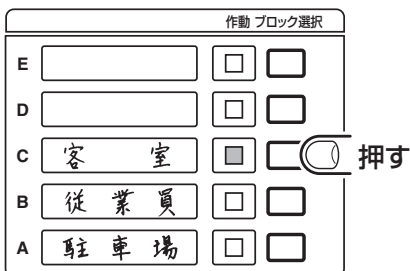
● ブロック放送を追加するとき

- 従業員を追加する場合は、ブロック選択スイッチ「従業員」を押すと追加放送されます。
- ブロック放送を中止する場合は、再度ブロック選択スイッチを押すと、解除されます。



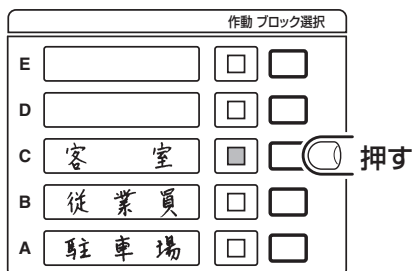
● ブロック放送に階別放送を追加するとき

- すべての客室と、1Fのロビー、ラウンジに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、1Fラウンジ、1Fロビーの放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべてと、1Fラウンジ、1Fロビーの階別作動表示灯が点灯します。

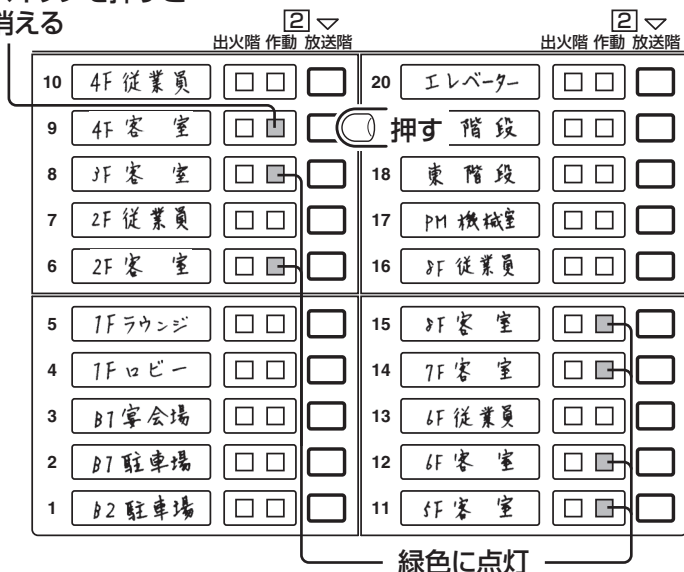


●指定したブロック選択の中に放送を止めた い場所があるとき

- 4Fの客室だけ放送を止めたいときは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、4F客室の放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべての階別作動表示灯が点灯し、放送階選択スイッチを押すと4F客室の階別作動表示灯が消えます。



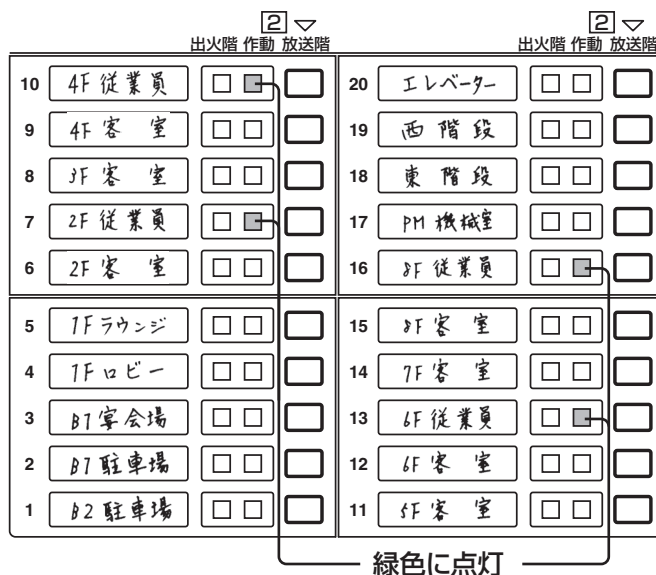
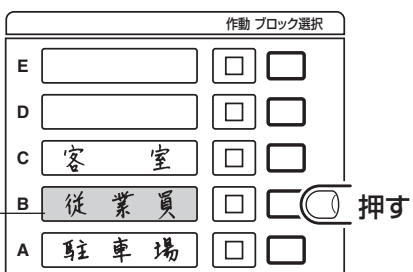
スイッチを押すと消える



操作

●ブロックに優先放送をしたいとき

- アッテネーターでスピーカーの音量が絞られている場合でも緊急時の放送に備えて放送できるようにしたいときは、ブロックに優先を設定（アッテネーター無効、最大音量で放送）することができます。



※ブロックに優先を設定したところは、目印を付けて区別しておくことをおすすめします。

相互通話のしかた

放送が行われていないときは、本機と非常リモコン間で、本体マイクを使つての相互通話（インターホン）をすることができます。

●相互通話のしかた

1. 放送が行われていないことを液晶パネルで確認する。

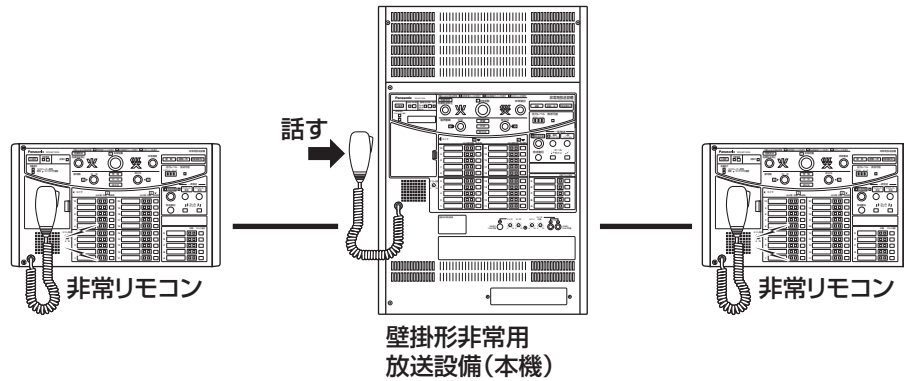
放送が行われていないとき、液晶パネルには何も表示されません。



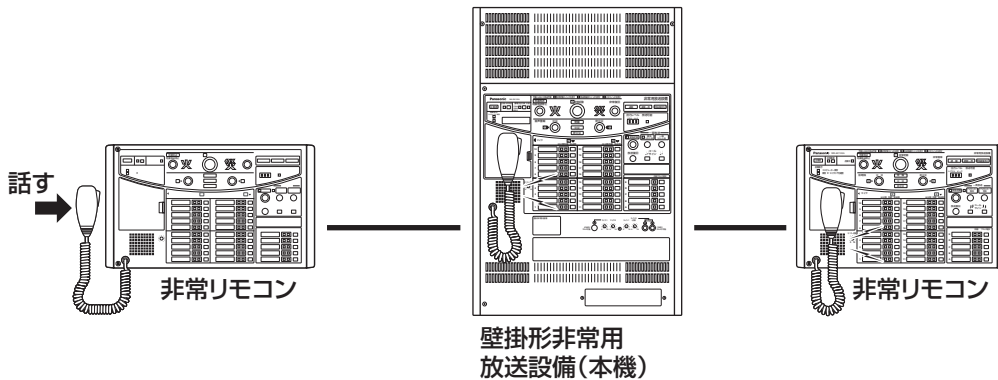
※放送階選択スイッチが押され、表示灯が上記以外の状態になると、マイク音声は選択された階へ放送されます。

2. 本体マイクを取り、マイクスイッチを押しながら話す。

- 本機の本体マイクからの音声は、つながっているすべての非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



- 非常リモコンの本体マイクからの音声は、本機と他の非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



日常点検

- 重要**
- ・万一の際、的確に機器が動作するように、日常点検を行ってください。日常点検時に異常を発見したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。
※ 日常点検は、動作の一部だけを点検するものですから、必ず定期点検を行ってください。
 - ・蓄電池は非常放送されなくても寿命があります。点検の際に容量不足があれば新品と交換してください。蓄電池の交換時期は約4年です。4年を経過すると性能が低下しますので、蓄電池の電圧状態が正常の範囲内でも交換してください。ただし、蓄電池の交換は危険ですから、必ず販売店または保守契約店にご依頼ください。

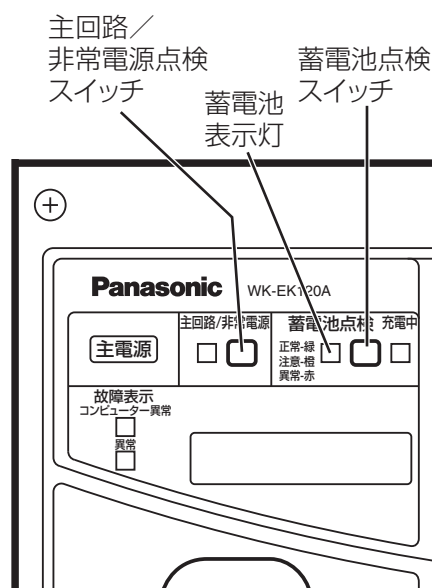
■ 電源の点検

● 手動点検（蓄電池の点検）

1. 充電中表示灯が点灯していることを確認する。
2. 操作パネルの蓄電池点検スイッチを押す。
10秒後に蓄電池電圧が判定され、蓄電池表示灯が点灯します。
緑：正常電圧の範囲内
橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です）
赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください）
点検結果（点灯色）は、次の点検まで保持されます。

蓄電池が動作電圧以下のときには、液晶画面が以下の表示になり、ブザー音が鳴ります。

＜イジヨウ＞チクテンチ
ヒジヨウ ヨウ



必要なとき

操作パネルの任意の放送階選択スイッチを押してブザー音を止め、販売店または保守契約店にご連絡ください。本機のブザー音を止めても、非常リモコンからブザー音が鳴り続けていますので、同様に非常リモコンの任意の放送階選択スイッチを押して止めます。

※手動点検を行うと、以後24時間おきに自動点検を行います。

● 常用電源の点検

1. 操作パネルの主電源表示灯が点灯していることを確認する。
停電および常用電源が低い場合は点灯しません。

● 主回路／非常電源電圧の点検

1. 主回路／非常電源表示灯が点灯していることを確認する。
停電および主回路電源電圧が異常の場合は点灯しません。
2. 主回路／非常電源点検スイッチを押して非常電源電圧を確認する。
非常電源電圧が異常の場合は点灯しません。



- ・蓄電池の電圧の点検は、蓄電池を消耗します。連続して点検を行わないでください。
- ・蓄電池点検スイッチを押すと、充電表示灯は点検している間消灯します。

日常点検

●蓄電池の交換について

⚠️ 注意

**蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する**



感電の原因となります。

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いには注意してください。

電力増幅ユニット(出力)	ニッケル・カドミウム蓄電池
	品 番
WU-PK106 (60 W)	NCB-165A
WU-PK112 (120 W)	NCB-350
WU-PK124 (240 W)	NCB-600
WU-PK136 (360 W)	NCB-600

- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



Ni-Cd

必要
な
と
き

保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が**義務づけられています**。
- 建物の規模、用途によっては**消防設備士**または、総務大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、保守点検契約の締結をおすすめします。
- 保守点検契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります**。



保守点検

■ 総合点検について

非常放送、緊急放送、業務放送の各放送モードが正しく動作するかどうかを保守点検で総合的に点検します。保守点検（定期点検）は、販売店または保守契約店に依頼してください。

1. 操作パネルのマイクドアを開け、**動作選択**スイッチで「テンケンモード」を選択して、**決定**スイッチを押す。

通常動作→設定情報→点検→書き込みモードの順に切り替わります。

2. 上下スイッチ▲▼で「SP 回線」、「EMG24V」、「SP 回線, EMG24V」の点検方法を選択して、**決定**スイッチを押す。

SP 回線 : スピーカーからの出力をカットするため、外部に点検時の音は聞こえません。液晶画面、モニタースピーカーで確認します。

EMG24V : ローカルアンプの放送を中断せずに点検を行います。

SP 回線, EMG24V : 外部に点検時の音を出さずに、ローカルアンプの音も中断せずに点検できます。

3. 操作パネルのライン 2 入力を点検入力として使用する場合は、「テンケン ニュウリョク」画面で、「ON」を上下スイッチ▲▼で選択して、**決定**スイッチを押す。

点検モードに入ります。

非常放送の点検時、音声警報は放送されません。

ライン 2 入力のほかに、マイク 1、2 入力、ラジオチューナーからも放送できます。

※操作パネルを開けるときの、ライン 2 / 点検入力に差したプラグを抜くか、開く角度を狭めてプラグが側面に当たらないようにしてください。

4. 実際に点検するモード「テンケンチュウ」にして点検を行う。

非常放送：非常起動スイッチを押します。放送階選択スイッチを押し、音声警報の点検を行います。

(18～29 ページ参照)

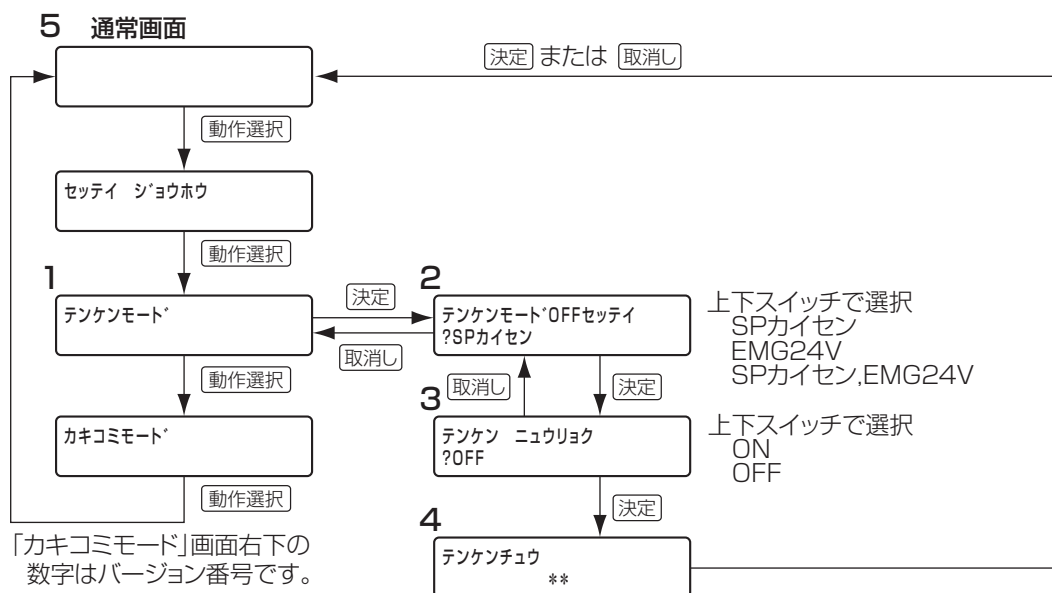
緊急放送：緊急起動スイッチを押します。放送階選択スイッチを押し、マイク放送等の点検を行います。

(32～33 ページ参照)

業務放送：いずれかの放送階選択スイッチやブロック選択スイッチを押し、マイク放送等の点検を行います。

(34～37 ページ参照)

5. 点検終了後は、**決定**スイッチまたは**取消し**スイッチを押して通常動作に戻す。



保守点検

■ 自動点検について

本機には、コンピューターによる自動点検機能がついており、蓄電池異常、通信異常、スピーカー回線短絡、本体マイク異常、パワーアンプ異常、主回路／非常電源異常の点検を行うとともに、その内容がログに記録されます。

点検項目	点検内容	点検方法 (コンピューターが自動的にいきます)	異常発生時の表示とブザー音	
			表示灯とブザー音	液晶表示 (異常発生時は、バックライトが点滅します)
蓄電池異常	蓄電池が正常電圧であるかどうかを判定	24時間おきに自動的に点検	蓄電池表示灯： 赤点灯 ブザー音：鳴動	<イジヨウ>チクテンチ ヒジヨウ ヨウ
通信異常	本機と非常リモコン間の通信を点検	常時自動的に点検	異常表示灯： 点灯 ブザー音：鳴動	<エラー>ツウシン ヒジヨウRM:* 下側に対象の「ヒジヨウRM」とアドレスNoが表示されます。
スピーカー回線短絡	スピーカー回線の短絡を検出	短絡状態のスピーカー回線で放送を行おうとしたときに検出	異常表示灯： 点灯 ブザー音：なし	<イジヨウ>SPカイセン ??、??、??、?? 下側に異常発生 of スピーカー回線Noが表示されます。
本体マイク異常	本体マイクの断線を監視	常時自動的に監視	異常表示灯： 点灯 ブザー音：なし	<イジヨウ>ホンタイマイク
電力増幅ユニット異常	電力増幅ユニットの異常を監視	電力増幅ユニットのヒューズ断、温度異常を常時監視。ファンの異常は、24時間おきに自動的にファンを動作させて点検	異常表示灯： 点灯 ブザー音：なし	<イジヨウ>パワーアンプ
主回路／非常電源異常	主回路、非常電源の電圧を監視	常時自動的に監視	主回路／非常電源表示灯： 消灯 ブザー音：なし	
主電源異常	主電源の電圧を監視	常時自動的に監視	主電源表示灯： 消灯 ブザー音：なし	
非常外部制御異常	ヒューズ断を監視	常時自動的に監視	異常表示灯： 点灯 ブザー音：鳴動	<イジヨウ>ヒューズ ヒジヨウカイブセイキョ

必要なとき

※異常発生時は、販売店または保守契約店にご連絡ください。

※ブザー音は、操作パネルの任意の放送階選択スイッチを押すと止まります。蓄電池異常と通信異常の場合は、非常リモコンからも鳴りますので、同様に非常リモコンの任意の放送階選択スイッチを押して止めます。

※マイクドア内の「取消し」スイッチ（エラー解除）を押すと液晶表示の表示内容が消えます。長押しすると再度表示されます。

※スピーカー回線短絡の異常表示は、通常状態または業務放送状態で非常復旧スイッチを押すと復旧します。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
本機から放送ができない	▶ ● 操作パネルのボリュームが絞られていませんか？ マイク 1 / 2、ライン 1 / ライン 2 に接続された機器の音量は、本ボリュームで調節することができます。	12
	▶ ● 放送階選択スイッチは押されていますか？ 放送先を選択すると、該当する階別作動表示灯が緑色に点灯します。	11
	▶ ● 放送可能表示灯が点灯していますか？ 本機よりも優先順位が高く設定された放送機器や音源機器が放送している場合は、放送可能表示灯は消灯します。このとき、本機からの放送はできません。	10
接続した音源機器の音が放送できない	▶ ● 上記「本機から放送ができない」をご参照ください	—
	▶ ● 音源機器の電源は入っていますか？ 音源機器の電源を確認してください	—
	▶ ● 音源機器の再生ボタンは押しましたか？ 再生ボタンを押して再生を開始してください。システムの構成によっては、プログラムコントローラーなど、時刻に同期して再生される場合もあります。	—
	▶ ● CD やテープなど再生メディアは挿入されていますか？ 再生メディアを挿入してください。	—
	▶ ● 外部制御入力で起動する設定になっていませんか？ このときは、他の操作では動作させることはできません。	37

必要なとき

機器の状態表示と対処方法

機器前面の表示灯が下記の状態になった場合には、この表にしたがって状態を確認してください。これらの対処をしても状態が改善しない場合は、その内容を記録してお買い上げの販売店にご相談ください。

機器の状態	対処方法
主電源表示灯が消灯している	<ul style="list-style-type: none"> 本機に常用電源（AC100 V）が供給されていない可能性があります。停電時も本表示灯は消灯しますが、故障ではありません。
主回路／非常電源表示灯が消灯している	<ul style="list-style-type: none"> 停電のとき： 本表示灯は消灯します。故障ではありません。 停電以外のとき： 回路用電源である主回路の電圧が、本機が正常動作するための規定電圧になっていません。 →本機に常用電源が供給されていないか、回路の故障の可能性があります。 主回路／非常電源点検スイッチを押して点検したとき： 非常電源の電圧が、本機が正常動作するための規定電圧になっていません。 →内蔵蓄電池が十分に充電されていないか、蓄電池が寿命の可能性がありま す。（蓄電池の交換時期は約4年です） ただし、蓄電池をお買い上げ直後は、充電が充分でないため正常点灯（緑色）しない場合があります。（満充電の目安は約24時間です）
蓄電池表示灯が「橙」または「赤」に点灯する。	<p>蓄電池をお買い上げ直後は、充電が充分でないため、異常「赤」、注意「橙」が点灯する場合があります。これは、満充電に至る過程での表示であり、故障ではありません。（満充電の目安は約24時間です）</p> <p>「緑」点灯時は蓄電池の電圧は正常電圧です。</p> <p>蓄電池表示灯は、蓄電池の電圧を、正常「緑」、注意「橙」、異常「赤」の3段階で表示します。蓄電池点検スイッチを押して10秒後に結果を表示します。</p> <p>下記のような場合は、停電時に非常放送ができません。すみやかにお買い上げの販売店へご相談ください。</p> <p>「橙」点灯：正常電圧の下限、蓄電池の交換時期がせまっています。</p> <p>「赤」点灯：動作電圧以下、蓄電池の交換が必要です。</p>
充電中表示灯が消灯している	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵蓄電池が充電状態になっていません。充電回路の故障が考えられます。 この場合、内蔵蓄電池は充電されていない可能性があります。停電時に非常放送ができません。すみやかにお買い上げの販売店へご相談ください。
「コンピューター異常」表示点灯	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵のコンピューターに異常が発生した可能性があります。 →ポケット内部のコンピューター制御スイッチを“切”にすると、緊急対応として本体マイクおよびライン3で一斉放送を行うことができます。 放送終了後、すみやかにお買い上げの販売店へご相談ください。
「異常」表示点灯	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵のコンピューター以外の異常が本機に発生しています。原因については、液晶画面に異常内容が表示されます。本表示がされた場合には、お買い上げの販売店へご相談ください。

仕様

●基本仕様

電源	AC100 V (50 Hz/60 Hz) またはDC24 V (別売り 蓄電池より供給)			
電力増幅部				
消費電流		WK-EK110A	WK-EK115A	WK-EK120A
WU-PK106	消費電力*	124 W	124 W	124 W
(60 W)	定格消費電力	224 W	224 W	224 W
WU-PK112	消費電力*	170 W	170 W	170 W
(120 W)	定格消費電力	403 W	403 W	403 W
WU-PK124	消費電力*	269 W	269 W	269 W
(240 W)	定格消費電力	810 W	810 W	810 W
WU-PK136	消費電力*	470 W	470 W	470 W
(360 W)	定格消費電力	850 W	850 W	850 W
警報時消費電力 (平均値)		WK-EK110A	WK-EK115A	WK-EK120A
WU-PK106	電源 DC24 V	113 W	113 W	113 W
(60 W)				
WU-PK112	電源 DC24 V	160 W	160 W	160 W
(120 W)				
WU-PK124	電源 DC24 V	258 W	258 W	258 W
(240 W)				
WU-PK136	電源 DC24 V	383 W	383 W	383 W
(360 W)				
負荷インピーダンス	60 W 100 系 : 167 Ω			
	120 W 100 系 : 83 Ω			
	240 W 100 系 : 42 Ω			
	360 W 100 系 : 28 Ω			
使用蓄電池 (非常用)	60 W NCB-165A 2,000 mAh (0.2 CmA)			
	120 W NCB-350 3,500 mAh (0.2 CmA)			
	240 W NCB-600 6,000 mAh (0.2 CmA)			
	360 W NCB-600 6,000 mAh (0.2 CmA)			
使用温度範囲	0 °C ~ + 40 °C			
寸法	幅450 mm 高さ664 mm 奥行150 mm			
質量		WK-EK110A	WK-EK115A	WK-EK120A
本体のみ		約13 kg	約13 kg	約13 kg
電力増幅ユニット	WU-PK106	約20.9 kg	約20.9 kg	約20.9 kg
蓄電池、組込み時	WU-PK112	約25 kg	約25 kg	約25 kg
	WU-PK124	約29 kg	約29 kg	約29 kg
	WU-PK136	約27.5 kg	約27.5 kg	約27.5 kg
仕上げ	パネル : OA アイボリー塗装 (マンセル5.5Y7.5/0.3近似色)			

※この表示は、電気用品安全法の技術基準に基づくものです。

必要なとき

仕様

●音声部

周波数特性	ライン系 50 Hz~15 kHz - 1 dB ± 2 dB マイク系 100 Hz~10 kHz - 2 dB ± 2 dB
ひずみ率	1 %以下 (1 kHz基準)
音質調整	低音 100 Hz ± 10 dB 高音 10 kHz ± 10 dB
マイク1、2 マイク1 (前面)	入力レベル -65 dBV 入力レベル調整可能 (前面) 入カインピーダンス 600 Ωに適合 平衡 S/N 50 dB以上 マイク1 (前面) 並列入力 前面フォンジャック入力優先 平衡
ライン1、2 ライン2/点検入力	入力レベル -12 dBV 入力レベル調整可能 (前面) 入カインピーダンス 10 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上 ライン2/点検入力 並列入力 前面ピンジャック入力優先 不平衡
ライン3	入力レベル -22 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 10 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
チャイム入力	入力レベル -22 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 10 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
アナウンス入力	入力レベル -2 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 10 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
チューナー入力	入力レベル -22 dBV 入カインピーダンス 20 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
リモコンマイク	入力レベル -10 dBV 出荷時0 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 1.2 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
マルチリモコン	入力レベル 0 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 600 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
非常リモコン1~4 (2回路)	入力レベル -10 dBV 出荷時0 dBV 入力レベル調整可能 (内蔵) 入カインピーダンス 600 kΩ 平衡 S/N 65 dB以上
ライン出力	出力レベル 0 dBV 負荷インピーダンス 10 kΩ以上に適合 不平衡
モニター出力 (非常リモコン用)	出力レベル 0 dBV 負荷インピーダンス 2 kΩ以上に適合 平衡

●非常／緊急地震操作部

非常／業務放送兼用マイク入力	入力レベル	出荷時-52 dBV
	入カインピーダンス	600 Ωに適合 不平衡 AGC付
	S/N	50 dB以上
音声警報	日本語／日本語+英語	切り替え 49の階情報を標準内蔵 階情報の増設可能（別売り）
モニタースピーカー	出力0.3 W 8 Ω	モニター音量調節付（前面） ハウリング防止機能付
出力制御回路	放送階選択スイッチ	WK-EK110A： 10局+優先一斉（アッテネーター無効）+一般一斉（アッテネーター有効） WK-EK115A： 15局+優先一斉（アッテネーター無効）+一般一斉（アッテネーター有効） WK-EK120A： 20局+優先一斉（アッテネーター無効）+一般一斉（アッテネーター有効） ブロック選択スイッチ 5局
音声警報スイッチ	火災放送スイッチ、非火災放送スイッチ	
非常操作スイッチ	非常起動スイッチ、非常復旧スイッチ	
地震放送停止スイッチ	地震放送停止スイッチ	
表示灯	火災、発報放送表示、火災放送表示、非火災放送表示、出火階表示、階別作動表示、連動表示、連動一斉表示、発報連動停止表示、放送階選択指示、マイク指示、火災放送選択指示、非火災放送選択指示、ブロック作動表示、地震放送表示	

仕様

●業務／緊急操作部

緊急操作スイッチ	緊急起動スイッチ、放送復旧スイッチ（業務放送時、緊急放送時有効）
一斉放送スイッチ	優先一斉（アッテネーター無効）、一般一斉（アッテネーター有効）
コールサインスイッチ	コールサイン上り、コールサイン下り 上り下りに合計10秒までオリジナルコールサイン音声の上書きが可能 別途、設定支援ソフト*が必要
表示灯	緊急起動表示、優先一斉表示
チャイム音源	ウェストミンスターの鐘、ウェストミンスターの鐘+重音3回、おもいで
内蔵メッセージ再生機能	10個のメッセージ音声を内蔵することが可能。（合計300秒） 出荷時、10種類のメッセージ音声を内蔵。オリジナルのメッセージ音声を 上書きすることが可能。

●内蔵メッセージ音声の内容

メッセージ No.	名称	放送内容
1	地震訓練放送 NHK	訓練。訓練。ピロンポローン、ピロンポローン。 これは緊急地震速報の訓練です。 訓練。訓練。ピロンポローン、ピロンポローン。 これは緊急地震速報の訓練です。
2	地震訓練放送 REIC	訓練。訓練。ヒュン、ヒュン、ヒュン。 これは緊急地震速報の訓練です。 訓練。訓練。ヒュン、ヒュン、ヒュン。 これは緊急地震速報の訓練です。
3	地震速報誤報 放送	先ほどの緊急地震放送は確認の結果誤りでした。 ご安心ください。
4	訓練予告放送	ただいまより、避難訓練を行います。 訓練用の非常放送が流れます。
5	火災訓練放送	訓練火災発生！訓練火災発生！フィーフォー・フィー フォー・フィーフォー（S1音）。火事です。火事です。 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。 フィーフォー・フィーフォー・フィーフォー（S1音）。 火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着い て避難してください。ビュー・ビュー・ビュー（S2音） （約10秒）。
6	閉館	本日はご来場ありがとうございました。 本施設はまもなく閉館いたします。 またのお越しをお待ちしています。
7	点検放送	ただ今、拡声放送設備の試験を行っております。 ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。
8	蛍の光	フルコーラス（50秒程度）
9	サイレン	ウーウーウー（サイレン音）
10	防犯	シグナル音（日本防犯設備協会 技術基準 準拠音源）

メッセージスイッチまたはブロック選択スイッチ、外部制御入力に割り当て、再生することができます。

別途、設定支援ソフト*が必要

*設定支援ソフトの入手方法は販売会社にご相談ください。（無償）

●その他表示／スイッチ

主電源表示灯	常用電源（AC100 V）使用時：緑色点灯
主回路／非常電源表示灯	LED点灯方式 通常：主回路の電源電圧を表示 非常電源電圧点検スイッチ押下時：非常電源の出力電圧を表示 正常：点灯（緑） 異常：消灯
蓄電池表示灯	LED点灯方式（蓄電池点検スイッチ押下10秒後） 正常電圧：緑色点灯 動作電圧下限：橙色点灯 動作電圧以下：赤色点灯
コンピューター異常表示灯	コンピューター異常時：赤色点灯
異常表示灯	機器異常発生時：赤色点灯
充電中表示灯	充電中：緑色点灯
液晶画面	16桁×2行 LEDバックライト
放送可能表示灯	放送可能時：緑色点灯
出力レベルメーター	3ポイント（ピーク：0 dB、シグナル1：-6 dB、シグナル2：-40 dB）
点検スイッチ	主回路／非常電源電圧点検、蓄電池点検

●マイクドア内

液晶画面操作スイッチ	動作選択、前画面、次画面、取消し、カーソル（上下、左右）、決定
コンピューター制御スイッチ	コンピューター制御 入、切
メッセージスイッチ（出荷時設定）	メッセージ1：サイレン音 メッセージ2：「地震訓練放送 NHK」メッセージ オリジナルメッセージ音声（10メッセージ）を各スイッチに割り当て可能 別途、設定支援ソフト*による設定が必要

*設定支援ソフトの入手方法は販売会社にご相談ください。（無償）

仕様

●外部制御端子

階別信号入力EL	WK-EK110A : 10 / WK-EK115A : 15 / WK-EK120A : 20 開放電圧 35 V 短絡電流 10 mA
火災確認信号EF	開放電圧 35 V 短絡電流 10 mA
緊急地震放送端子	開放電圧 35 V 短絡電流 10 mA
EB制御出力 (EB接点)	無電圧メイク リレー接点 DC50 V 最大制御電流1 A
RU+出力	有電圧出力 出力電圧24 V 制御電流100 mA
非常外部制御出力	EMG24 Vブレイク / メイク接点 出力電圧24 V 制御電流100 mA (メイク制御 切り替え可)
アナウンス起動入力	開放電圧 5 V 短絡電流 1 mA
チャイム起動入力	開放電圧 5 V 短絡電流 1 mA
外部制御入力1~5	開放電圧 5 V 短絡電流 1 mA
緊急起動入力	開放電圧 35 V 短絡電流 2 mA
リモコンマイク制御	制御入力10、一斉、放送制御、放送中出力、コールサイン上り / 下り
リモコンマイク電源出力	出力電圧 DC24 V 最大電流 150 mA (2台まで接続可)
非常リモコン制御	CPU OFF、EMG、LB+、LB- (各端子2台まで) 最大4台接続可能
非常リモコン電源出力	出力電圧 DC24 V 最大電流 1.2 A マルチリモコンマイクと合わせてシステムで最大4台までの電源供給が可能
マルチリモコンマイク制御	LB+、LB- 1回路 最大4台接続可能
マルチリモコンマイク電源出力	出力電圧 DC24 V 最大電流 1.0 A 非常リモコンと合わせてシステムで最大4台までの電源供給が可能 4台を超える場合はWR-MC100A (マルチリモコンマイク) にACアダプターWZ-MC100Aが必要 (別売り)
外部制御出力	5回路 オープンコレクタ方式 制御電圧35 V 制御電流 80 mA
スピーカー出力	WK-EK110A : 10 / WK-EK115A : 15 / WK-EK120A : 20 (N / R / C)

●その他仕様

自己診断機能	蓄電池電圧点検、非常 / 業務放送兼用マイク点検、非常リモコン通信点検、 スピーカー回線短絡、電力増幅ユニット点検
--------	--

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(47ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- | | |
|--------|---------------------------------|
| ●製品名 | 壁掛形非常用放送設備 |
| ●品番 | WK-EK110A, WK-EK115A, WK-EK120A |
| ●故障の状況 | できるだけ具体的に |

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

- | | |
|-----|------------------|
| 技術料 | 診断・修理・調整・点検などの費用 |
| 部品代 | 部品および補助材料代 |
| 出張料 | 技術者を派遣する費用 |

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

必要なとき

非常用放送設備機器に関するお願い

機器の正常な動作のために、定期点検と日常的な確認を行ってください。

非常用放送設備が設置された防火対象物の所有者、管理者又は占有者は、消防法、その他関係法令によって、非常用放送設備の定期的な点検と報告が義務付けられています。

機器点検 6ヶ月に1回以上

総合点検 1年に1回以上

(消防庁告示より。平成19年7月1日現在の情報です。常に最新の関連法令にしたがってください。)

日常の確認において以下のような状態であった場合には、機器が正常に動作しない原因となりますので、ただちに販売店または保守契約店に連絡してください。

特に10年を超えてお使いの場合、故障の発生確率が高まり、正しく動作しないおそれがあります。点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。詳しくは、販売店または保守契約店に相談してください。

必要なとき

このような状態ではありませんか？

- 非常電源ユニット内の蓄電池の交換を行っていない。
- 蓄電池点検スイッチを押しても、表示灯が緑色に点灯しない。
- 非常電源ユニット前面の通気孔からの吸い込みが弱い。ほこりがたまっている。
- 音がひずんでいたり、聞こえにくかったりして、十分な音量や明瞭な音質が得られない。
- ときどき、音が途切れたり、音にノイズが混入したりする。
- 壁などに取り付けてある製品をさわるとぐらぐらする。
- 操作スイッチにほこりがたまっていたり、変形や破損している。
- 液晶画面がはっきり表示されなくなったり、操作面の印刷表示が消えて読みにくい。
- 外観に変形や破損がある。

販売店または保守契約店に連絡してください

- 蓄電池は使用しなくても寿命があります。4年を経過したら、販売店または保守契約店に交換を依頼してください。
- 蓄電池の交換に合わせて、販売店または保守契約店にファンの交換を依頼してください。通気孔のほこりは取り除いてください。
- 法令で規定された音圧が取れていない可能性があります。販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
- 取付ねじがゆるんでいる可能性があります。販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
- 操作スイッチが動作しない可能性があります。販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
- 正しい操作が行えない原因となります。
- 販売店または保守契約店に点検を依頼してください。

高所設置製品に関するお願い

本機を高所に設置してお使いの場合、落下によるけがや事故を未然に防止するため、下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 本機を使用せずに放置している。
- 取付ねじがゆるんだり、抜けたりしている。
- 取付部がぐらぐらしたり、傾いたりしている。
- 本機および取付部に破損や著しいさびがある。



直ちに使用を中止してください

事故防止のため、必ず販売店または施工業者に**撤去**を依頼してください。

事故防止のため、必ず販売店または施工業者に**点検**を依頼してください。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリー
ダイヤル  **0120-878-410** パナハ ヨイワ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号